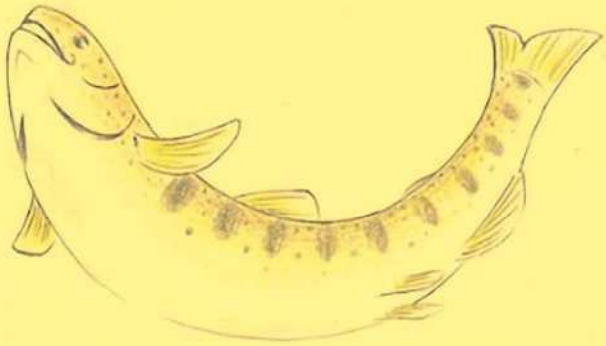
令和５年度

サクラマス・プロジェクト

キャリア教育
報告集



「アントレプレナーシップ教育」

島根県立吉賀高等学校

目　　次

巻頭言　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

吉賀高校のアントレプレナーシップ(アントレ)教育とは　2・3

３年生　アントレを振り返って　・・・・・・・・・・・・・　4〜7

アントレ校内発表会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8〜10

アントレ成果発表会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11〜14

生徒スライド　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15〜62

１年間のアントレを振り返って　・・・・・・・・・・・・・　63〜65

吉賀高校アントレ　講評

青山学院大学　教育人間科学部　教授　樋田　大二郎・・　66・67

大正大学　地域創生学部　教授　浦崎　太郎　・・・・・　67・68

桜美林大学教育探究科学群　准教授　山崎　慎一・・・・　68・69

青山学院大学　教育人間科学部　客員研究員　大木　由以・　69・70

巻　頭　言

島根県立吉賀高等学校
校　長　勝　部　千　良

吉賀高校のキャリア教育は、「総合的な探究の時間」を中心に、１～３年次の連続性を大事にしながら「アントレプレナーシップ教育」（以下、アントレ）に取り組んでいます。

これまでの本校のキャリア教育への取り組みが評価され、昨年度の本誌に紹介しておりますが、本校は「キャリア教育優良学校」として文部科学大臣表彰を受賞しております。また、今年度は、本校のアントレの推進にリーダーシップを発揮して取り組んでいる中村美楠子教諭が文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞いたしました。この２年連続となる表彰を受け、それは今後のさらなる発展、深化を目指してほしいという期待とも受け止めております。

今年度の「アントレプレナーシップ教育成果発表会」は、令和６年２月９日（金）に開催いたしました。午前中に本校にて１、２年生が８ブースに分かれて個人で発表を行いました。午後からは会場を六日市体育館に移し、各ブース代表者による発表をし、コメンテーターである大学の先生方から講評をいただきました。先生方からは身近なテーマに対する探究心、堂々とした発表の態度などいろいろな観点からお褒めの言葉をいただく一方で、さらなる高みを目指した激励ともいえるやや厳しいコメントもありました。次年度のアントレにつながる貴重な助言を受け、生徒たちはモチベーションを高めることができたと思います。

さて、私が成果発表会について一番感じたことは、この学びの成果はどこにどうつながっていくのかということです。アントレを通じて生徒たちはいろいろなことを学んでいます。自分の選んだテーマそのものについてはもちろんのこと、多くの人たちの前で分かりやすく伝えること、そして、質疑への対応などいろいろあります。数人の生徒たちが、アントレを通じて「コミュニケーション力」を養えたということを語っていました。話す人がいて、聴く人がいる。そして、発表後には対話がある。まさに「自他ともに尊重するコミュニケーション」の場がアントレには設定されているのではないでしょうか。この力は生徒たちの今後の人生で大いに役立ちます。

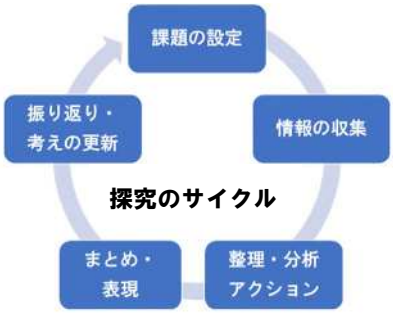
また、今後のアントレに関して課題となっていることの１つは、各教科の学習とのリンクです。自分の選んだテーマについて探究を進めるうえで、日ごろ学んでいる各教科の学習内容、学習方法がどのように関係しているのかという点で、さらなる研究が必要です。大変難しい課題ですが、本校でもこの点をさらに詰めていければと考えております。

本冊子は、「アントレプレナーシップ教育成果発表会」で発表した内容の報告集であり、掲載されているスライド１枚１枚に生徒たちの学びの成果が詰まっております。令和６年度には３学年とも全生徒が自分の学習端末を使い、学習します。このスライド作成にも反映されておりますが、生徒たちの ICT に関するスキルもアントレなどを通じて向上しております。その一端も各ページから感じていただければと存じます。

最後になりますが、アントレを多方面から支えていただいております大学の諸先生方、そして日頃からご指導いただいております地域の皆様に心より感謝申し上げ、巻頭言といたします。

吉賀高校のアントレプレナーシップ教育（アントレ）とは

吉賀高校では総合的な探究の時間を「アントレプレナーシップ教育（通称アントレ)」と称しプロジェクト型探究学習を行っています。アントレプレナーシップとは「起業家精神」を意味しますが、この変化の大きい不確かな時代に、仕事が無いなら自ら創るマインドとスキルを身につけるための授業と位置づけ、「未来を創る力」を育成する探究学習を展開しています。この授業の中で、自分たちのやりたいこと（Will）と、出来ること（Can)、そして地域社会における需要（Need）を掛け合わせて、ありたい未来を実現するために仮説を立て、それを検証するための『プロジェクト』を考え、地域をフィールドとして実践に移し､探究のサイクルを回していきます。



１年生はまず探究の型を習得することと、協働する力を身につけることを重要視し、興味関心に応じて７つのグループに分かれて探究活動を進めてきました。テーマ設定に入る前に、地域を知り社会を知る意味で、RESAS を用いて吉賀町について調べたり、SDG s のワークショップを実施したりして視野を広げました。地域をフィールドとして探究活動を行う本校としては欠かせないパートナーである各地域の公民館の皆さんに協力を仰ぎ、公民館による地域活動に参画させてもらいながら自分たちのプロジェクトを考え実践したり、テーマによっては先輩たちのプロジェクトを引き継ぎながら、自分たちの個性を活かしてプロジェクトを進化させ実践したりする形式にしました。

また、青山学院大学・法政大学・桜美林大学との高大協働研究を１年生対象に行い、大学生と交流しながら探究学習を深めてきました。８月下旬に吉賀町に大学生が、10 月には東京に高校生が訪問し、それぞれの地でフィールドワークを行いました。オンラインで顔合わせをしたり、打ち合わせをしたりもしましたが、やはり実際に会って話をしたり、一緒に出掛けたりする中で対面でしか味わえない喜びと刺激をもらいました。年間を通して、多様な視点からの意見やアドバイスをもらい、壁打ちしてもらいながら、沢山の学びを得ることができました。

２年生は、改めて自分の進路と向き合いながらテーマ設定を行い、個人またはグループでそれぞれに試行錯誤し、アントレの活動を進めてきました。今年度も２年生は NPO カタリバ主催の「学校横断型探究プロジェクト」に参加し、山形県立小国高校、長野県立阿南高校、京都府立須知高校とのオンライン交流を年３回実施しました。県外の高校生たちと交流し、互いの探究活動を知ることができ、刺激を受けたようです。また、秋には大正大学地域創生学部の大学生と交流し、大学生の人生グラフをもとに対話をし、アントレについての情報交換などもしました。限られた時間の中でも、視野を広げることができました。

３年生は７月に最終発表会を行いましたが、それぞれの３年間のアントレを振り返り、自身の成長や後輩へ伝えたいことなどを堂々と発表してくれました。中には就職試験、受験勉強と並行して、３学期までアントレの活動を継続する生徒もいました。そして２学期末には、「サクラマス・とーく！」で町内全小学校に出向き、これまでの人生について語り、小学生と交流をしましたが、小学生の気持ちを考えながら、言葉を選んで自らの学びを振り返り語る姿はとても輝いていました。

本校のアントレは地域の方々の協力があってこそ成り立っています。どのプロジェクトも、地域の現状を聞き取り、プロジェクトを考え、様々な方にご協力いただきながら実践に移しています。また、大学生と一緒に地域のリアルに触れ、机上の空論ではなく地に足の着いた学びを展開できているのは、お忙しい中でも時間を割いていただき、高校生・大学生に機会と場を提供いただいている地域の皆様のおかげです。

２月の成果発表会は午後の部を六日市体育館での実施としましたが、当日は中学生を始め、地域の方々にも多数ご来場いただきました。代表８名の発表をじっくりと聞いて励ましのお言葉をいただきましたこと感謝申し上げます。また、日頃より本校のアントレにご協力いただいている大学の先生方にも当日にご来場いただき講評していただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

一昨年度より、２月の成果発表会は個人の発表としています。午前中には一人ひとりがアントレを通して感じたこと、壁にぶちあたったこと、成長したことなどを自分の言葉で語りましたが、多くの発表で「自分一人では到底無理だったけど、チームのメンバーや地域の方、先生方に協力してもらって実践につなげられた」というような言葉が見受けられました。本当にたくさんの方々に支えられて行ってきたアントレですが、今年度の高校生たちのプロジェクトの内容、アントレを通じての学びや成長などをまとめたスライドをこの報告集には掲載しております。個人ではなくプロジェクト毎の報告になりますが、吉高のアントレの発展のため、これからもご助言・ご協力をお願いいたします。

３年生　アントレを振り返って

■アントレについて

私は１年次に、多文化共生というテーマで外国の伝統料理を給食で提供し、国際交流のきっかけとなるよう活動してきました。初めはわからないことが多く、先輩に頼りすぎてしまったのが反省点でした。２・３年時はその反省点を意識しながら取り組みました。２年時はハンセン病差別の啓発活動に取り組み、日本全体の大きな差別問題に自分たちがどう行動をおこせるだろうかと考えながら活動してきました。自分たちがまず詳しく知るために、熊本県にある国立療養所菊池恵楓園を訪問し、学びました。その学びを動画に残し、少しでもハンセン病について知ってもらえるよう活動しました。この活動を通して今自分ができることは何かを考え、行動することができるようになりました。また、進路や生活の中においてもアントレで身についた力を感じるようになりました。

私は県外から来たので、特にアントレのことを詳しく知らず、知り合いもいなかったので、この授業に楽しみと不安の状況でいつも受けていました。しかし、この授業を通して町の魅力や自分のやりたいことなどについて発見できました。そして、その気づきを通して自分が何を学びたいかについて認識できたので、今後の進路先でも自分の周りの幸せについて追求していきたいです。

１年時は「子どもの遊び場をつくる」というテーマで活動しました。予算や地域の遊び場の現状など、役場の方にお話を聞き活動に役立たせていただきました。初めてのアントレでわからないことだらけでしたが、先輩や先生にもアドバイスをもらい、協力して活動を進めることができました。２・３年次は「吉賀町のごみの課題」をテーマに活動しました。小学校で分別に関する授業を行い、保育園でごみを再利用したおもちゃ製作に取り組みました。ごみの課題をどのように解決するか、またどうやったら小さい子にもごみの分別を知ってもらえるかを考えながら試すことができました。これらの経験を通して何事にも臨機応変に対応する力が身についたと思います。

■学び・挑戦・成長・身につけた力、とその根拠となるエピソード

僕は人間関係を築くことに苦手意識があったので、人に話しかける機会を少しでも増やすために多くのボランティアに参加しました。その経験を通してコミュニケーション能力を高めることができたように思います。そして、アントレでは地域の方と話す機会も多かったので、自分から積極的に話しかけることができるようになったと思います。

自分たちは「マイナースポーツを通して友達の輪を広げよう」というテーマで活動してきました。２年生から継続しているプロジェクトでしたが、なかなか自分たちの思い通りというわけにはいかず、結局イベントが開催できたのは３年生になってからでした。それでも、あきらめずに続けることができたことは自分にとって大きな成長につながったと思います。

■地域をフィールドとし、地域の人たちと交流したり協働したりすることの意義について

自分たちだけでプロジェクトを進めると幅が狭くなってしまうけど、地域の方に協力してもらったおかげで、難しいことも実現することができました。また、最初に自分がやりたかったこともできたことに加え、当初は想像もしていなかったことまで実現したので、すごくいい経験になりました。同時にたくさんの方と積極的に関わることでコミュニケーション能力や主体性などいろいろな能力がついて成長できたと実感しています。何より、地域の方と関わるアントレはすごく楽しかったです。

私は小学生に自分たちが企画したイベントに参加してもらうというアントレでしたが１年次は先輩たちに頼ってばかりでした。しかし、２・３年次には主体性をもって、小学生が楽しんで遊べるものを作るというという内容に発展させました。当初は不安でしたが、関係する方々と連絡をとったり調整したりする中で、３年間を通してコミュニケーション能力や協調性、計画力が身につき成長できたと思います。

私は子どもたちの放課後活動に関するアントレ活動を行いました。この活動では、たくさんの地域の方にご協力をいただきました。そして、地域の方と関わることで、私たちからだけではなく地域の方からも私たちのアントレをやってほしいいと声をかけていただくことが多くなりました。しかも、アントレだけでなく、吉賀町のイベントにも参加を呼び掛けていただき本当に多くの方との関わりや人のつながりを感じることができました。

■アントレの学びが教科・進路やこれからもっと深めたいことや疑問につながったことなど

今の進路先を選んだ理由はアントレを通して、「自分はまだまだ社会の現状を知らないな」と思ったからです。後輩たちには「アントレの時間を大切にするべき」ということを伝えたいです。高校時代のアントレが学びの入り口となり、次の進路先でしっかり深めることもできる可能性があります。

私は１年時「吉賀町の方言タオルを作って販売しPRする」というプロジェクトで活動していました。最終的にタオルを製作する費用が大きくなりすぎたため、断念しましたが、またいつか商品を作って販売したいという後悔が残っていました。この反省を生かして行動に移しやすいプロジェクトを考え、小学生に楽しく勉強を教えるイベントを数回開きました。結果は大成功で、多くの小学生が楽しめたと言ってくれました。私はアントレを通じて多くの力を身につけ、様々な経験をすることができました。もし、都会の高校に通っていれば企業の方と電話で交渉したり、教育委員会の方と一緒にイベントを開いたりすることなどの経験はできずコミュニケーション能力や視野が狭いままだったと思います。しかし、吉賀高校に通ったことで大きく成長できました。先生方や地域の方には本当にお世話になりました。これから進学した後は高校で学んだ知識や後悔の念を糧に、地域活性化に貢献し、自分を成長させてくれた島根に恩返しをしていきたいです。

Thank you!!

この活動をしようと思ったきっかけ

アントレは未来を創る

- これまで、皆さんは自分たちのやりたいこと（Will）と、出来ること（Can）、そしてその需要（Needs）を掛け合わせて、ありたい未来を実現するために仮説を立て、それを検証するための『プロジェクト』を考え、実践に移してきました。
- 今日は、大きな探究のサイクルでいうと【まとめ・表現】に当たります。しっかりと職員に向けて、プロジェクトについて語ってください。そして、２月の発表に向けて、深めたり改善したりすべき点を明らかにしていきましょう。
- そして、お互いのプロジェクトに刺激を受けながら、よりよい未来を一緒に創っていくために意見を出し合いましょう！

課題の設定 → 情報の収集 → 整理・分析 アクション → まとめ・表現 → 振り返り・考えの更新

本日のタイムテーブル

時間	内容
12:45 － 12:55	オープニング
12:55 － 13:50	グループセッション①
13:50 － 14:00	休憩
14:00 － 14:55	グループセッション②
14:55 － 15:10	学びのまとめワーク
15:10 － 15:25	講評・クロージング

発表プロジェクト一覧

学年-チーム	メンバー	テーマorプロジェクト名	学年-チーム	メンバー	テーマorプロジェクト名
1年-A	小田倫之郎/加藤実/桑原馨 平田陽人/須藤保	地域づくり@栃木			
1年-B	内田裕奈/佐古優希 永島芽久/関新佑/藤本拓人	障がい者福祉	2年-7	木村莉子/中村心美	米粉プロジェクト
1年-C	岩原吉奈/小田實明 近藤恵真/木元雪也/内田樹	子ども@七日市＆朝倉	2年-8	子島弘太郎	カメムシ忌避開発
1年-D	齋藤実次/吉村梅彩/吉田冬羽 藤田文人/村上依太郎	高齢者福祉＆子ども食堂	2年-9	貝賀恵奈	ゆず商品化計画
1年-E	高久優太郎/谷口伊吾/田口桜 清水麻那/山田樹菜	地域づくり@六日市	2年-10	矢野七海/沖田優花	持続可能な花壇づくり
1年-F	齋藤琉星/齋藤大斗/柴野皇貴 沖田雄大/小林宗谷	多文化共生	2年-11	高久冬うら/正木歩乃生	小説づくり
1年-G	茅原優斗/宇村雅弘 中山和/新田優義/山本来輝	地域づくり@藤木	2年-12	鈴木雄太/平野大和 岩本理沙/村上盛樹	よしかPR
2年-1	秋田歩太	都会と地方の教育	2年-13	吉本さやか	吉賀町PR
2年-2	原田怜	校則	2年-14	村上希愛来/中山明	木を使ってものづくり
2年-3	田中星羅	PR	2年-15	横木誠月/加藤都誠 新福莉央/藤本由佳	kids
2年-4	齋藤巨貴/浅尾雄斗	川と子ども	2年-16	植田祐里/清谷遥翔	川をきれいに
2年-5	伊藤祐葉/小倉歩友	イベント大作戦	2年-17	田中琉翔	医療についてのプロジェクト
2年-6	竹原誠也/新田友輝	誰もが暮らしやすい地域	2年-18	沖田優花	食を通じて笑顔溢れるよしか町に！

評価について

今日の発表は、次の3観点で評価していきましょう！
（3つの観点のレベルは、次ページのルーブリックを確認してね◎）

1. 探究の内容
2. スライドの工夫
3. 発表の仕方

ふせんの使い方

上の3観点で、良かったこと（赤）・気づいたことや質問（青）などを書いて、発表後に渡してください。

【ブルー/グリーン】 改善点 疑問点

【イエロー/ピンク】 良かった点

☆ふせんの使い方⇒発表者のプロジェクトがよりよくなるようなアドバイス・感想を書いてね！
ミスの指摘より建設的な話を！

8

評価ルーブリック

ルーブリック	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	目指すカ
探究の内容	・その探究テーマにした理由が伝わらない ・情報を収集できていない （探究のサイクルを全く理解できていない）	・その探究テーマにした理由を言葉にできる ・情報を収集し、アクションも考えているが、本当にニーズがそこにあるかは微妙 （探究のサイクルを表面的に把握している）	・情報収集を複数回行い、分析をしている ・ニーズが適度にあり、誰かのためにアクションを実行している （探究のサイクルを理解している）	・情報収集を複数回行い、客観的に分析をしている ・誰かのためにアクションを実行+ふりかえりをしている ・次への具体的なプランを提示している （探究のサイクルを本質的に理解している）	【思考力】
スライドの工夫	・情報が整理されていない ・文字ばっかりでグラフや写真がない	・情報が整理されているが、グラフや写真などが使われていない	・情報が分かりやすく整理されている ・グラフや写真が効果的に使われている	・情報が分かりやすく整理されている ・文字の大きさやグラフや写真が効果的に使われている ・過度でないアニメーションなどを使っている	【表現力】
発表者の伝え方	・発表者が原稿やスクリーンのみを見ながらしている ・声が小さく棒読みである	・聴衆を見ようとしているが、スライドに書いてあることを読み上げるのみ ・聞き取りやすい声の大きさで話している	・発表資料以外の情報も加えながら発表している ・聴衆の方を向いて十分な音量で伝えている	・発表資料以外の情報も加え、ポイントを整理しながら発表している ・聴衆とやり取りしながら、熱い思いで発表に引き付けることができる	【表現力】

9

発表を聴くとき

ワークシートA（聴き手用）

※発表を聴きながら使用

発表を聞いて感じたこと/考えたこと・発表者に聞いてみたいことメモ

■プロジェクト名：

◎聞きながらのメモ/感じたこと/考えたこと

項目	レベル
アントレの内容	1・2・3・4
スライドの工夫	1・2・3・4
発表の仕方	1・2・3・4

◎聞いてみたいこと（質疑の時間に、チャンスがあれば聞いてみよう！）

- 探究/プロジェクトが進む中で、マイページなどがしっかり活用されたか？
- 探究/プロジェクトの中で、一番やりがいがあったと言える時期がやってきたことは？
- プロジェクトを始めるきっかけ、関わる人がもっといたとしたら、どんな関係が中間ありますか？
- イベントに参加しやり、つくったモノ/実践した人の感想や、参加やもしくは活用中の様子？
- プロジェクトをやってみて、一番おもしろかったことは？楽しかった瞬間は？
  ※ボケ、自分で思いついた質問も、もちろんOK！！

◎聞いてみたことへの回答

■プロジェクト名：

◎聞きながらのメモ/感じたこと/考えたこと

項目	レベル
アントレの内容	1・2・3・4
スライドの工夫	1・2・3・4
発表の仕方	1・2・3・4

◎聞いてみたいこと（質疑の時間に、チャンスがあれば聞いてみよう！）

- 探究/プロジェクトが進む中で、マイページなどがしっかり活用されたか？
- 探究/プロジェクトの中で、一番やりがいがあったと言える時期がやってきたことは？
- プロジェクトを始めるきっかけ、関わる人がもっといたとしたら、どんな関係が中間ありますか？
- イベントに参加しやり、つくったモノ/実践した人の感想や、参加やもしくは活用中の様子？
- プロジェクトをやってみて、一番おもしろかったことは？楽しかった瞬間は？
  ※ボケ、自分で思いついた質問も、もちろんOK！！

◎聞いてみたことへの回答

アントレ校内発表会を通して（教職員・来場者の感想）

■発表内容・テーマ・発表形式など

・内容について「何を達成したか」よりも、取り組みの中で「どのように工夫したか」「どのような点を克服してきたのか」について着目している。その観点から見て、発表はとてもよかった。

・大学生との交流がかなり効果的だと感じた。大学生と関わることで、見方・考え方が広がっていると感じた。

・「なんで子どもが好きなのか？」「なんで福祉に興味があるのか？」などをもっと深掘りすると、オリジナリティも出るし、自分のストーリーや想い・気持ちが入ってくるのではないか。

・誰かの型ではなく、自分なりの何かを作っていくことができたのは印象的だった。

■生徒の様子など

・2 年生を見ると他県の高校生との交流でお互いに刺激を与えている印象をもった。年々自分と向き合う割合が増えてきていると感じた。

・今年の 2 月よりも成長を感じました。

・自分なりの正解を作ろうともがいている姿が感動的だった。経験を通じて自分の「強み」や「弱み」などを見つけているなと感じ、こちらもすごくポジティブな気持ちになった。

・1 年生は堂々と発表しており、今後の見通しについても触れていた点はよかった。

・原稿を読みながらの人もいましたが、自分の言葉で説明しようと頑張っていました。

・自分の言葉で発表していた生徒も多く、質疑が活発だったのが印象的だった。

■全体の感想・今後に向けて

・現段階では自分が中心となっていますが、その活動が他人にどのような影響をあたえるのか、を考えるともっとプロジェクトの質が良くなると思いました。

・欲を言えば、想いは伝わるけれど結局なぜその活動を行ったのか、今後何をしたいのかがわからない発表もあった。次の発表までに伝えたいこと、そうではないことを洗練できるといいと思った。

・全国の様々な取り組みをもっと調べてほしい。本を読む、論文を読むなど幅広く情報を集めることを宿題としてお願いしたい。すぐ結果の出ることだけ取り組んでいると大局には繋がらないことも多くある。

最初のプロジェクト内
吉賀町の廃棄されるお
&
スポットライトの当たらない
を使ってスイーツ作り

小規模校サミットへの参加

年長児交流会は1年に3回開催

島根県立吉賀高等学校

サクラマスプロジェクト

令和5年度

アントレプレナーシップ教育 成果発表会

日時

2024年
2月9日（金）
13：15～16：00

会場

吉賀町民 六日市体育館

コメンテーター

青山学院大学　教育人間科学部
樋田 大二郎 教授

大正大学　地域創生学部
浦崎 太郎 教授

桜美林大学　教育探究科学群
山崎 慎一 准教授

日本女子大学　家政学部
樋田 有一郎 学術研究員

青山学院大学　教育人間科学部
大木 由以 客員研究員

＼こちらもぜひご来場下さい！／

「サクラマスフェス2024」
～ 来て・見て・楽しむ『地域の力』～

日時　2024年2月10日（土）
10：00～14：00
場所　吉賀町民六日市体育館
入場無料・申込み不要
途中入退場 OK

今知ってほしい5地区の魅力的な取組を紹介！
聞くだけじゃない！体験するフェス！

お気軽にご来場下さい！

私たち吉高生がアントレの経験から学んだことを熱く語ります！

お問い合わせ先：TEL 0856－78－0029　吉賀高等学校

イラスト「アイディア禍威獣（2）」吉賀高校美術部2年　原田　玲　田中　璃珀

アントレ成果発表会を通して

■生徒の感想（1 年生）

・地域の人と関わって、何かを成し遂げることの大変さと面白さが分かり、挑戦することに意味があると学びました。成功することが大切だ！結果が全てだ！と思っていたけど、それまでの過程も大切だと思いました。伸ばせたと思う力は、コミュニケーション能力です。代表にも選ばれて、人前で話すことやアドリブで話す、緊張せずに話す力も伸びたと思いました。

・アントレ発表会を通して、自分がしてきたことを発表出来て自分に力がついたと思いました。上手く発表することは出来なかったけれど、自分がやってきたことを伝えられてよかったです。次はもっとうまく発表を伝えられたらいいなと思いました。

・最初は上手くできるか心配でした。でも前で発表したら、案外うまくいき、聞いてくれた人達からも凄く良かったよなどと声を届けてくれました。自分では結構噛んでいたし、途中でなんて伝えようかと一瞬止まったりしたので後半の発表は無理だなと思っていました。実際、後半の発表はうまくいってなかったけど良かったよと言ってもらえたので凄く達成感を感じました。

・地域の方や、大学生などはじめて会う方とあまりコミュニケーションが取れなかったけどアントレの活動を通してうまくコミュニケーションがとれるようになったなと思いました。また、みんなをまとめる力がさらに伸びたなと感じました。

・自分の足りないところを即座に埋めるのは難しくても、仲間に頼ることによって自分の至らない点も即座に解決することもできたし、自分のコミュニケーション能力を様々な話し合いをへて向上させることもできました。特に仲間同士の話し合いで相手の意見に同調するだけではなく、自分の意見と違うところを確認し合うこともできたので成長したと思いました。

■生徒の感想（２年生）

・計画実行力が伸びたと思う。２年生になってから、一人でアントレ活動を行っているので、自分でしっかり決めて計画を立てて行かないと、時間だけが過ぎて行くのを実感しました。今はアポ取りやイベントの実施など、ある程度の見通しを立てて行動できるようになりました。

・今年度の途中から一人で活動するようになったので自分自身で考えて全て自分でやるようになりました。人に聞いたことをメモするのが早くなったり、やりたいことを明確にして自分にできることとできないことを見分けられるようになったりしました。

・今回の発表は前より成長したと思いました。一つ目はスライドです。スライドでは見る人が見やすいように内容をまとめることができました。二つ目は質疑応答です。去年はうまく質問に対して答えることができなかったけれど、今年はちゃんとした説明をしっかり言うことができました。反省点は発表での失敗から成長への繋がりがなかったことです。成功と失敗を言っていただけなので次はそこから成長に繋がることを言えるようにしたいと思いました。

・１年間の活動を通じて、学んだことと伸ばせたと思う資質能力は、実行力です。１年生の時はなかなか行動に移すことができず、後悔したので、２年生ではとりあえず行動に移すことを意識して活動しました。しっかりと行動を起こさないと、問題点が見えてこない部分が多々あり、行動に移すことはとても大事なことだなと感じました。

■教職員の感想

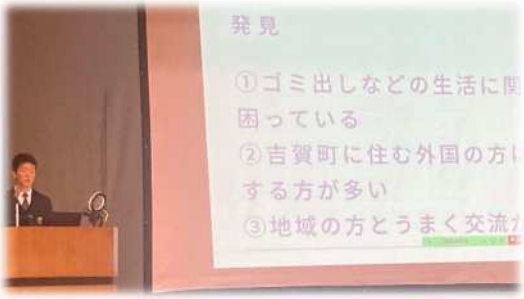
・スライドや発表の仕方に工夫が見られ、生き生きと語る姿に感心しました。ただ、全体的に綺麗にまとめてはいるものの、まだまだ内容は表面的であったり、自分独自の色が薄かったりと、改善点はあるように感じました。失敗してもいいからどんどんやってみようというハングリー精神がもっと出てくると、さらにおもしろい活動になりそうだなと期待しています。また、発表者の中には人前での発表が本当に苦手だと言っていた生徒もいましたが、その生徒も多くの聴衆の前で一生懸命に話し、分かりやすく伝えようとしていました。おそらく発表後にはほっとした気持ちと共に達成感があり、自信につながったのではないでしょうか。そして、大学の先生からの質問やコメントにも自分の言葉で何とか答えようとする姿が印象的でした。模範解答ではなく、自分の頭で考えて答えを出す力がアントレの活動を通して少しずつ伸びていることを感じました。

・発表を聞いていて感じたのは、上手にまとめている人ほど「客観」と「主観」という視点の使い分けができている、ということです。（ここでは、活動内容を事実として語る部分を「客観」、その活動の中で生じた自分自身の思いや成長を語ることを「主観」とします。）活動内容をただ淡々と時系列順に並べるだけでは成長が見えてきません。しかしながら、自分自身の思いばかり語っていても具体的な活動や成果がわかりにくくなってしまいます。発表の上手な人は、そこの

バランスをうまくとりながら、自分自身の活動と成長をわかりやすく説明していました。精神的な成長というのは言語化しにくい部分でもあります。そこを上手に言葉にして、自己認識を深めることが、また次の成長にもつながります。今回「うまくできなかったな」と感じている生徒の皆さんには、この「言語化」を意識して来年も頑張ってもらいたいです。

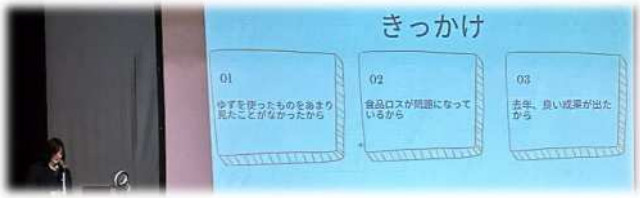
■来場者の感想

・発表されたみなさん一人ひとりが自分の「探究の中心軸」をしっかりと持っておられることを感じられる発表で、こちらも気づきや学びが得られる時間となりました。特に、自身の活動の過程（単に活動の内容についての過程だけでなく、活動を通じて感じたことや学んだことも含めて）をしっかりと発表できている点がすばらしかったです。おそらく、活動が一区切りしたタイミングで（もしかしたら活動がうまく進まないタイミングで）、一度立ち止まって丁寧に振り返りをしておられるからこそ、経験を自身の学びに変えて、成長につなげていけているのだと思います。特に、当初の自分の目標について、いったんアクションを起こしてみることを通してアップグレードを重ねている姿は、心に響くものでした。（自分ももっとチャレンジしながら、成長していきたいと感じました。）このような吉賀高校の生徒のみなさんの姿が、地域にもチャレンジするエネルギーを与えてくれるのだと思います。素晴らしい発表ありがとうございました！



・高校生が活躍することで町が活性化されることはすごくいい事だと思います。アントレを通じて学んだことはきっと社会に出てからも役立つことばかりなので、これからも活動を継続的に続けて行って欲しいと思います。

・まだまだ視野を広くできる。将来につながる活動になっている人が多かった気がする。あとは、それらを実際に吉賀町に還元されたら最高なのでは？その還元の部分がまだまだな気がする。それは大人の責任だろうけど、大人が動かなければ、本当に若い力で起業して欲しい。



・私たちが活動していた時よりも規模も大きく、地域との関わりも深くなり、全体的に内容の詰まった活動になっていて、発表を聞いてもその成果が分かりやすかった。

柿木地域づくり（空き家）

1年A班　潮 拓実　小田 優之朗　桑原 翠　守田 陸人　渡邊 徠

第2回FW内容（東京研修）

エリアまちづくり専門会社
株式会社QUOL

広い視野を持ってPJを進める

相手の立場になってneedsを考える

例：柿木住民の声を聞く　➡　アンケート作成

興味関心を持ったきっかけ

柿木の夏祭りに参加し興味が湧いた

柿木公民館の発信が多い

抱えている問題を解決したい

第3回FW内容

柿木公民館

【学んだこと】
空き家を一件に絞る
アンケートは回答率を上げる工夫をする
吉賀町役場企画課とのコラボの提案
プロジェクトはやりたいことをやる

アンケート調査の実施
吉賀町役場企画課とのコラボ

最初のPJ内容

柿木にUIJターンの人を呼び込む

⬇

空き家問題を解決する

⬇

まずは柿木の空き家状態について知る

FW後のPJ

パンフレットは時間がかかる

⬇

パンフレット作成断念

第1回FW内容

柿木公民館

空き家解体には持ち主の方の許可取得や費用の問題

⬇

高校生だけでは厳しい

空き家解体を勧めるパンフレット作成

吉賀町役場企画課のFW

【学んだこと】

・空き家の数→1000～2500
・引っ越してくる世代やどんな人が多いか
　→（若い）家族
・空き家のPR方法→動画を作成し、企画課の作製する
　フェイスブックに投稿

FW後のPJ

企画課の方に動画を頂くことが難しい

⬇

空き家へ案内してもらい自分たちで動画撮影

アントレ活動で失敗したこと

1，持ち主がわからない,金がかかる,人口の変化,固定資産税
➡空き家を解体することが難しい

2，仮説、検証、プロジェクトの目的が曖昧だった

➡何をすべきか分からなくなった

これまでのPJ内容

撮った動画に高校生目線のコメントをつけて編集

⬇️

編集した動画を企画課に渡して実際に
吉賀町空き家紹介サイトとして使ってもらえた

アントレ活動で成長したこと

・話を簡単にまとめること
・コミュニケーション能力
・情報のメモ、整理
・スライド作りの工夫の仕方
・意見を出す！！！！！！！！！！！！！！

今回撮影した空き家

これから変わりたいこと

空き家に関する活動はとても難しかったので、原点に返り
活動内容を見直していきたい

コミュニケーション能力を上げて、フィールドワークで話し合
いが活発にできるようになりたい

実行力を身に着けていろいろな人と関わりたい

アントレ活動での気付き

吉賀町は人と人の関わりが深い

人が持っている能力を発揮するとよりよくなる

地域活性化にはエリアのブランド価値の向上が必要

PJを進める上で地域との合意形成が大切

アントレ活動でお世話になった方々

株式会社QUOL　磯貝　将徳さん　三上　大貴さん
桜美林大学　前薗　悠理さん　岩倉　花音さん　高木　宗一郎さん
柿木公民館　河野　洋司さん　円山　洋輔さん
吉賀町役場　企画課　木村　充さん　沖野　敦史さん

ご協力ありがとうございました

缶入りパンプロジェクト

1年　B班

永島箔人、広瀬颯、藤本拓人、佐古俊希、内田柚奈

第2回フィールドワークin東京　10月4日

つばきガーデン　サービス管理責任者　河野邦顕さん

聞いたこと

・商品販売のアドバイスやアピールの仕方

わかったこと

・協力してほしい企業には積極的に何度もアピールする

・色んな人との繋がりを利用して宣伝する

このPJを選んだきっかけ

よしかの里さんのコッペパンが
美味しそう

障害者福祉に貢献したい

障害者福祉に興味があったから

LITALICOワークス

センター長　　鶴見想さん

サービス管理責任者　渡辺勲さん

聞いたこと

・缶入りパンの売上を上げるための案

例　ラベルを変える、アレンジレシピなど

よしかの里さん紹介

障がいのある方がパンを作る会社

コッペパンが有名だったから最初は
コッペパン作りに協力したいと思った。

東京研修でわかったこと

障がい者支援のために工賃アップをめざすには、高校生も主体的に動き、よしかの里さんと連携して活動することが大切。

第1回フィールドワーク at よしかの里
8月25日

販路拡大によって工賃を上げたいがコッペパンだと日持ちがしないので市場規模を広げるには不向き

日持ちする缶入りパンで販路拡大させる

メモ

工賃・・・生産活動に参加した利用者に、作業の対価として支払うもの

販路・・・商品を売りさばく方面

FW後に考えた仮説・PJ

障がい者の方の工賃が低いので、缶入りパンの売上を上げる

↓ 障がい者の方の生活を豊かにできるのでは？

①限定ラベルの写真募集
②アレンジレシピ
③宣伝

①限定ラベルの写真募集

缶入りパンに貼る写真募集

➡ 吉賀町らしさが伝わらない

これまでのPJでの気づき

- 各企業さんに許可をもらうときの交渉が大変
- 社会で働くという実感
- チームの団結力が大切
- まえもって準備することの大切さ
- 臨機応変に活動すること

➡ 吉高美術部に協力依頼

この3枚に決定

真田の夕焼け（イチゴ）

水源公園（キャラメル）

高津川（チョコ）

PJで失敗したこと

東京フィールドワークのときにまえもって準備していなくて、企業の方とやり取りがうまくできなかった。

PJで改善したこと

企業さんと話す前にまえもって準備することと、話を聞くことで自分たちが知らない知識を得る事ができると理解。

②アレンジレシピ ➡ラスクに決定

焼き方やバターの塗り方を工夫

これから気をつけたいこと

わからないことはすぐ確認し、連携をしっかりとって団結して対応すること。

③宣伝

PJ実施内容

3月開催のキヌヤよしかフェア参加
①ラスクの試食会実施
②オリジナルラベル缶入りパン販売

お世話になった方々

よしかの里施設長	GHサービス管理責任者	谷川　僚輔　さん
つばきガーデン	サービス管理責任者管理者	河野　邦顕　さん
LITALICOワークス センター長 サービス管理責任者		鶴見　想　さん
		渡辺　勲　さん
吉賀町総務課		向井　幹男　さん
法政大学		佐藤　深苑　さん
		椎名　菜月　さん
		吉岡　陸　さん

ご協力ありがとうございました。

放課後サクラマス

1年　C班
永見響也　小田宣明　内田唯　近重優真　岩原由奈

放課後サクラマス体験

七日市小学校

内容　七日市小学校の裏山を登り探索

朝倉小学校

内容　コロンビア発祥のズンバというダンスを踊る

プロジェクト＆仮説

最初の仮説：子供が体を動かして遊べる環境を作れば、少しでもメディアから離れて子どもが健康になる

⬇️何かを作るのは難しい…⬇️

新しい仮説：昔からある遊びをリメイクすることで、子どもたちが簡単に遊ぶことができるようになる

⬅️山登り

ズンバ➡

フィールドワーク

七日市公民館訪問して

・放課後サクラマスで地域の方と子どもが関っている

・3つの間（時間・仲間・空間）を意識して活動することが大切

・放課後サクラマスとはなにか

について、知ることができました。

東京フィールドワーク

放課後NPOアフタースクールさんに訪問

聞いた内容

・年々外で遊んでいる子供の数が減っていること

・PJにどんな子供が来てほしいかをある程度考えておく

・子どもとの関わり方：目線を合わせる、名前を呼ぶ、声をかける

・PJをやりたくない子供には事前に「こんなPJするよ」という旨を教えておくと良い

放課後サクラマスとは

・公民館が主体となって、地域の人と一緒に小学生の放課後の活動を作っています。

・場づくりの上で…
　子どもたちがより豊かで学びの多い場所を作る
　安心していられる場所を作る
　色々なことに挑戦できる場所を作る　を目指しています。

実践!!

12月18日（月）

朝倉小学校の放課後サクラマス

ミニ大会を企画し、逆かくれんぼ・だれがころんだ・

マーカー踏み鬼ごっこを朝倉小学校の生徒と地域の人たちと活動した

成長したところ

コミュニケーションを多く取れるようになった

地域の方や子どもたちと関わってきて多くの人と話すことができた

子どもとの関わり方

子どもとどう関わればいいかを知ることができた

⬅だれがころんだ

マーカー踏み鬼ごっこ➡

振り返り

永見　子どもと関わってきて学んだことがたくさんあって、とてもいいアントレにすることができました。学んだことをこれからのアントレに活かしていきたいと思いました。

岩原　アントレの活動を通して子どもたちと関わることができました。私は、子どもと関わることが得意ではなかったので、このアントレを通して関わることができて良かったです。

小田　アントレ活動を通して学んだことがたくさんありました。僕は、子どもと関わることがあまりなかったので、子どもたちとの接し方がわからなかったけど、アントレ活動を通して学ぶことが出来てよかったです。

良かった点

子どもとどうやって関わっていけば良いかを実践できた

・名前を読んであげる

・声掛けをする

・目線を合わせて話す

振り返り

内田　自分は、人と話すこと、人と触れ合うことがとても苦手です。2月下旬にある高校生企画で少しでも克服できるように努力します。

近重　子どもとの触れ合い方や社会ではたくさんのグループや団体が活動をしていることに驚きました。たくさんの気づきがあって個人的には充実してました。次回のアントレに向けてがんばります。

改善点

企画内容を考える時間があまりなく考えが捻れなかった部分があった

逆かくれんぼ　➡　目隠しかくれんぼ

↳鬼が目隠しをして人を探す

お世話になった方々

吉賀町教育委員会:
坂田　哲郎さん
村上　奈々子さん

七日市公民館:
茅原　美里さん

特定非営利活動法人
放課後NPOアフタースクール
鈴木　香里さん
太田　悠景さん

地域の方:
谷　みどりさん
その他関わってくれた皆さん

七日市小学校:
佐々木　将光さん

桜美林大学:
星　里梨歌さん
深田　恵未さん

ありがとうございました

子ども食堂

1年　D班
吉村柚紀　有田冬翔　藤田文人　齋藤寛汰　村上晄太郎

仮説

現状
子ども食堂に来る人が少ない

子ども食堂で高校生企画を実施

地域の方たちの交流の場になる

なにかトラブルがあったときに助け合える

きっかけ

子ども食堂にお手伝いに行った

来てくれる子どもが少なかった

こどもに気軽に来てほしい

フィールドワーク　8月

大学生と社会福祉協議会

・高齢者福祉…生活をサポート

・高齢者サロン…運動不足解消、交流

・子ども食堂…なないろ食堂・ぐるぐる食堂

現状

子ども食堂は誰でも来れて食べられるところ

子ども食堂にくるこどもが少ない

↓

もっと増やしたい

フィールドワーク　9月

子ども食堂（なないろ食堂）訪問

・子どもが思ったより少なかった

・食中毒や配膳などの配慮

・その人にあった量を提供

プロジェクト案

こども食堂で高校生企画

内容　こどもが今までより来てほしいからこどもが目を引くようなことをやる

例えばゲーム、勉強を手伝う、高校生と遊ぶなど…

フィールドワーク～10月東京研修～

大学生と一緒にNPO法人むすびえの方々に話を伺った（全国に何軒ぐらい子ども食堂があるか、している活動内容など）

自分たちがこどもがどうしたら来てくれるかなど..アドバイスなどを聞いた

大学生と一緒にできそうなことを振り返り、5つに絞って企画について考えるなどなど

フィールドワーク～11月編～

高校生企画の準備、アイディアの話をした→インスタに投稿するか、ゲームにするか.....など

なかなか企画の役割分担が決まらず…話し合いのために福祉協議会に行く予定がなかなか行けず…

とにかく忙しかった

ぐるぐる食堂　in柿木

様子

- 子どもがたくさんいた
- ご飯を食べた後、外で遊んでいた

話した内容

- 体を動かせる遊びをしたい

12月　フィールドワーク（高校生企画実施）

子どもが3～4人から17人に急増した

改善点を振り返った（子供の様子、企画をしたときのルールを守れていたかなど）

学校のインスタを見て来てくれた人もいた

自分たちが作ったチラシで知った人もいた

高校生企画　inぐるぐる食堂

体を動かす遊び（おにごっこ、サッカー）

なないろ食堂での経験を活かして高校生企画を計画！！

子どもが楽しいことが一番

一人の子が出ないように目を配る

このようなことを意識して実施したい

アントレ振り返り

学んだこと

- メモを取る　⇒　すぐに忘れてしまうから
- 計画を立てる　⇒　直前になって慌てるから
- ターゲットをしぼる　⇒　プロジェクト案が出やすい

高校生企画　振り返り

- 狙い通り子どもがたくさん来てくれた
- 子どもと遊べて楽しかった
- 子どもが集まるスペースがちいさかった

お世話になった方々

NPO法人全国こども食堂支援センター　むすびえ　　江副真文様　深井芽里様

社会福祉協議会　　石井由香利様　松本源太郎様　包楽楽様

なないろ食堂の皆さん　ぐるぐる食堂の皆さん

青山学院大学　4年　石田柊平さん　尾登海斗さん　熊瀬川小実さん

地域づくり
@六日市

1年E班
髙久倫太郎　田口桜
清水麻那　谷脇伊香　山田瑠菜

仮説

吉賀町民がもっと深く関わるために保育園児から高齢者向けのイベントを開催することで互いに関わる時間が増えるのではないか？

きっかけ

- 自分の住んでいる地区の抱えている課題は何？
- 吉賀町にもっと興味を持ちたい！
- 公民館だから人とたくさん関われて楽しそう！

東京研修
フィールドワーク②

子どものためのイベント企画会社
ピコトン　代表取締役　内木　広宣さん

私達が考えた企画のアイディアのアドバイスをいただきました

フィールドワーク①

六日市公民館

向井さん、清水さん

地域の人が
もっと関わってほしい

学んだこと

- SNSの宣伝効果→広すぎて届かない
- テーマづくりが大事！！！
- 入口を華やかにしてお客さんが来るようにする。
- 何をテーマにするか。

ようす

フィールドワーク③④

③ゆるり広場で絵手紙
④中学生企画のお手伝い

仮説は正しかったのか？

高校生（中学生・小学生）が活動することで地域の大人がたくさん参加してくれて、つながりが広がることが実証できた

12月のイベント

内容

- **魚釣りゲーム**
- **ウォーターライト作り**
- **クリスマスリース作り**
- **クリスマスツリー作り**

活動を通して伸ばせた力

人に伝える力
積極的に意見を言う力
頼る力

ウォーターライト

活動を通して学んだこと

自分たちで立てた企画の準備を逆算すること

吉賀町の人口が少ない分、濃く関わることができる

ウォーターライト

材料

ボトル
懐中電灯
ビーズ
ラメ
シール

関わってくださった方へ

ピコトン　株式会社取締役社長　　内木　広宣　さん
吉賀高校　コーディネーター　　坂田　紀之　さん

六日市公民館　主事　　向井　恵さん　清水愛美さん

青山学院大学　佐藤　全　さん　　川田　理沙　さん
鈴木　真由　さん　下郷　珠生　さん

私達の活動へご協力、伴走ありがとうございます

多文化共生

1年F班
沖田雄之助　齋藤大斗　齋藤琉晟　樽井将斗　中村夏貴

フィールドワーク②（東京研修）

しんじゅく多文化共生プラザへ！
➜情報提供や相談支援などを行っている
（コロナのときの対応など）

発見
➜東京でも外国の方が孤立してしまう

きっかけ…

- 外国に興味があったから
- 英語が好きだったから
- 外国人の方と関わる活動がしたかったから

東京研修での様子

最初のプロジェクト案

吉賀町に住む外国の方を対象にアンケートを取り、アンケートを元に生活の手助けとなるパンフレットを作成する！

フィールドワークでの学び

- 相手の立場になってニーズに応えることが大切
- 外国人との交流を増やし、もっと情報を集めることが必要
- 東京でも吉賀町でも外国人の方が孤立してしまう

フィールドワーク①気づき、発見

8月のフィールドワークでは、青山学院大学の皆さんと一緒に吉賀町役場を訪れ、役場の方に多文化共生についてお話を伺った

発見

- ゴミ出しなど生活面で困っている
- 吉賀町の外国人は短い期間で吉賀町を離れる人が多い
- 地域の方とうまく交流ができない

プロジェクトの変更

吉賀町に住む外国の方の困っていることを聞くために
アンケートを作成！

東京研修後、アンケートを作成し役場の方にアドバイスを頂いた。

アドバイス
やさしい日本語を使うこと役場にもパンフレットがある外国人もインターネットを使う

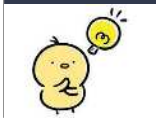
パンフレットではなく動画を作りたい

効果測定方法

・制作した動画をMACの
　皆様に実際に見てもらう

・アンケートを取り、動画を改善する

反省・改善点



・アンケートなどを通して本当　に外国人が知りたいことなどを理解した

・意見は出すことができたが、行動に移すのがとても遅かった

・役割分担がしっかりできていなかった

現在の進捗状況

MACで働いている外国人の皆さん（30人）を対象にアンケートを取った

　→このアンケートを元に動画を作成中

アントレでの学び

・相手の立場になって考えることが大切

・相手のニーズに合わせるにはたくさんの相手と交流して情報を収集しなければいけない

アンケート内容・結果

●防災について知りたいこと

・地震時の行動をどうすればよいか　12件

・火災時の行動をどうすればよいか　14件

・台風の時の行動をどうすればよいか　8件

・救急車、警察の電話番号を知っているか　7件

今後の予定

・アンケートに答えていただいたMACの皆さんに、作った動画を見てもらいたい

・外国人の方と関われるような活動をしたい

・吉賀町に住む外国の方が少しでも生活しやすくなったら嬉しい

アンケート内容・結果

●生活について知りたいこと

・ゴミ出しについて

　分け方　3件

　出す場所　5件

　出す日にち　1件

・自転車のマナー　1件

・暮らしのマナー　2件

・バスの乗り方　9件

・吉賀町のイベント　22件

お世話になった方々

【吉賀町役場】
　小濱明未さん　野田梨奈さん
【しんじゅく多文化共生プラザ】
　綿貫剛さん
【株式会社MAC】
　三宅武夫さん　上野晃さん　社員の皆様
【青山学院大学】
　高橋奈波さん　田中里莉花さん　宮村歩さん
　山口葵さん　　大泉陽耶さん

1年

蔵木地域づくり

6班　茅原優斗　藤田禮嘉　山本来輝　中村雪羽　中山和

仮説　子どもが笑顔になると
地域の人も笑顔になる

テーマを選んだ理由

・蔵木のことを広めていきたいと思った

・地域の人々との関わりを深めたい

・地域を盛り上げたい

そうだ！！
小学校の教頭先生に相談に行こう！！
↳給食時に参加者募集をさせてもらえることになった
（小学生と昼休みに遊んで帰る）
↳その結果、参加者8名確保…

8月

・蔵木公民館に行き、話を聞いた

学んだこと
・目標は外部の方にPRするのではなく、地域の方を元気づけることと、地域の人同士で繋がってもらうこと

・蔵木フェスタに参加して地域の方を元気づける
↳クイズをする

くらぎフェスタに向けての準備

・クイズの方式の決定
・事前説明会の実施（学童担当の方との相談）
・参加承諾書の作成、配布&回収
・参加賞のお菓子の買い出し、袋詰
・ジェスチャーのテーマ、問題決め
・画面表示のスライド作成
・前日リハーサル

当日の役割分担
司会　　藤田
例題演技　　中村　山本
パソコン操作　中山
（茅原　体調不良のため当日欠席）

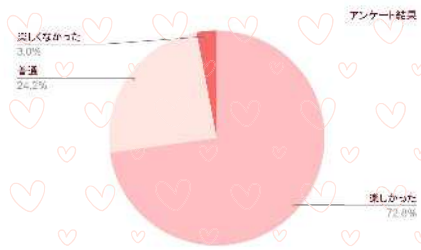
10月（東京研修）

教材開発やイベント開催をするLUCK株式会社に行った(相談内容)

・蔵木フェスタでクイズ、何をすればより盛り上がるか
（アドバイス）
・目標を確認することが大切
・身近な話題のほうが盛り上がるのでは
・動きや音があるほうが盛り上がる

『くらぎフェスタ』開催

日にち：１１月１２日（日）
場　所：蔵木小学校体育館



地域の人からのコメント

ぐだぐだ
頑張ってた
声が小さい
座っていてもできる指手運動もいいかも
会場を巻き込んでてよかった
楽しそうだった
みんな参加できるところがよかった

slidesmania.com

アントレで改善したこと

- 時間の使い方

↳仕事を分担、早めに取り組む

- 計画性を持って取り組む

slidesmania.com

アントレの活動を通して学んだこと

- 多くの人の意見を取り入れる

↳公民館の人、地域の人、大学生など

- 地域の人と関わること

slidesmania.com

深化させたい＆変えたい部分

もっと地域の人との関わりを深めていきたい

↳ 学童に行って小学生と関わる
小学校の授業に参加する

slidesmania.com

- 笑顔で接する
- 自分の心を小学生まで戻して遊ぶ
- 小学生が好きそうな話題を考えておく

slidesmania.com

お世話になった方々

- 蔵木公民館　池下弘幸さん　折口沙羅さん
- LUCK株式会社　小川凜一さん　砂田智香さん
- 蔵木小学校　谷上元織教頭先生
- 蔵木放課後児童クラブの皆様
- 青山学院大学　福村泰史さん　宮島杏奈さん
柳川恵祐さん　窪田夏菜さん
坂口怜士郎さん

slidesmania.com

アントレでの失敗、後悔

- 小学生たちをまとめるのが難しい
- 時間が足りずバタバタした
- 計画するのが遅かった

slidesmania.com

Thank you

slidesmania.com

都会と地方の教育

2-1 秋田　歩太

第一回フィールドワーク

蔵木小学校へ訪問

教頭　谷上元織さん

教師目線の教育
地方の教育の実態

プロジェクトのきっかけ

友人との会話や吉賀町での暮らし

小規模校サミットへの参加

全国から８県16校１２８名の生徒が山形県小国町に集まり、各校の取り組みなどを交流する会

プロジェクト目標

都会と地方の教育をお互いが知ることによって
環境に縛られない進路選択を実現する

小規模校サミットでの学び

・各校の探究活動を聞き、刺激をもらった
・島根県教育魅力化特命官の岩本悠さんの話
↳地方の高校の活動は最先端を行っている！
↳なおさら地方の高校の活動を都会に伝えるべきでは？？

最初のプロジェクト案

対象　都会の学生と地方の学生
内容　オンラインなどを通して交流

抽象的,,,

自分が立てた仮説

地方の高校生が、都会では味わえない地域や学校の魅力を都会の中学生に伝える。

↓

進学先や将来に地方という選択肢が追加されて、
教育格差が少なくなり、学びの幅が広がる。

考えたプロジェクト案

対象　都会の中学2年生と地方の高校生
内容　オンラインで対話やプレゼンなどを通して都会の中学生に地方の高校生の活動や地域の生活を知ってもらう。

具体的！

尾田洋平さんのお話

地域教育魅力化
プラットフォーム

・参加してもらうためにどうやって魅力的なイベントにすることが重要。
・実際に来るのは0.1%。対象を絞って、まずはプロジェクトの効果を見る。

中学校へ送る企画書を作成したが....

色々情報不足なところが多く、まだもう少し企画を考えたほうがいいかも。
↳いろんな人と交流して実際に聞いてみよう！

都会の中学校へ訪問

大阪市の東住吉中学校

企画書を見てもらい、オンライン交流会を実施する際の注意点や、高校と中学校間の連携について話し合った。

大学生交流

大学生にプロジェクトのアドバイスをもらった
・中学生は色々な制限がある。敷居を低く持つ。
・進路である以上しっかりと細かいところまで伝える必要がある。

アントレでの学び

具体的にする力

具体的にすることで、プロジェクトの中身がつまり、周りを巻き込んだプロジェクトになっていく。

情報収集の大切さ

いろんな人に話を聞いたり、情報を収集することによって、プロジェクトが具体的になる。

島根大学生との交流

吉賀.津和野.江津.益田の高校生８人と大学生７人と交流
・アンケートはシンプルでわかりやすいもの
・いろいろ迷ったりするときのためにしっかりとした目標を立てることが大事
・映像などを撮って伝えるのもあり

お世話になった方々ありがとうございました

蔵木小学校教頭　谷上元織さん
地域魅力化プラットフォーム　尾田洋平さん
東住吉中学校教員　岡田仁さん

校則について考える

２年　原田　玲

フィールドワーク

オンライン交流　11/16
校則について活動している高校を紹介してもらった

それぞれの学校の状況や、
これからの課題について話した

きっかけ

小学校の時クラスで毎昼休みにやるほど歴史人物かるたが流行った

それを見てトランプを持ってきてやろうとしたら先生に「カードゲームは雨の日以外やってはいけない」と止められた

「歴史人物かるたは良いのか」ときいたら「勉強になるから良い」と言われた

それに疑問を持ち、ルールに関心を持つようになった

仮説

周りを見ていたり、意見を聞いていて、きちんと守られていない校則があったり、フィールドワークでも納得できないから守らなかったりするのではないかという意見があり、**校則に納得できる理由があれば守れるのではないか**と仮説を立てた。

最初のプロジェクト案

そのような体験で校則に対する反感が強かったため

最初のプロジェクト案は
校則をすべてなくすという強引なもの

プロジェクト

そこから考えたプロジェクト案は
学校にいる人の表面的な意識を知るためにまず
アンケートを行う
その次により深く意見を聞くために、
生徒や教師と意見交換をする

フィールドワーク

第一回のフィールドワーク7/12　谷上元織さん
対話を大切にする教育の考え方考えていたプロジェクト案が対話を考慮しておらう、今の校則の状態とわからないことに気づいた

オンラインインタビュー　10/19　カタリバの起塚拓志さん
大槌高校という校則を変えた高校を紹介してもらった

校則を変えるうえで正当な手続きを知っておくこと、ルールは場合によって変わっていくものだから継続と見直しをしていくことが大切

カタリバ：ルールメイキングに付いて活動している

アンケートの結果と改善

アンケートを行った結果、以下のような結果が得られた

校則をすべて把握していると言う人はいない

現状のままで良いと思っている教師が多い	教師１８人中１３人
校則の改善を願っている生徒が多い	生徒９８人中２５人

三分の一にも満たない数の生徒にしか答えてもらえなかった

お知らせの仕方が悪かった
次は半数以上の人に答えてもらえるように工夫する。

方針

校則をすべて把握している人がいないというアンケート結果と、**答えてくれた人が三分の一にも満たなかった**ということから、**校則に関心がない人が多いのではないか**と考えた

校則を変えることにおいて、学校にいる人の意見を聞くことは必ずしなくてはならない

校則に関心がない人が多い状態ではそれがかなわない

まずはみんなの校則に対する関心を高める

成長

１年時はやりたいことがわからず、なんとなくテーマを決め、なんとなく進めてしまっていた。しかしアントレとは次の図のように課題を発見し、その課題がどのような状態でどうすれば解決できるかということを**探究**し、そこから解決策を考え、課題を解決するという流れが基本だと思うが、１年時私はこの探究の部分をおろそかにしていた。

校則についての意見交換

校則に関心がないとはどのような状況かということをテーマに、校則についての意見交換を２年生徒と行った。その結果、以下のような意見が得られた

- 生徒と教師でお互いに守らないルール、注意しなくて良いルールなど**暗黙の了解**のような状態になっている
- 男子は携帯端末に関する校則には興味があるが服装規定には興味がなかったり、女子服装規定には興味があるが、携帯医端末の規定には興味がないなど、**男女で関心がある校則が違う**
- 式典などの際は服装などを統一したほうが良いが、普段の学校生活では厳しく縛る必要がない
- 他人に迷惑をかけない服装であれば何でも良い

成長

校則についての意見交換

成長

２年時になって本当にやりたいテーマを選ぶことができて、**問題の根本を知り、解決に近づけたい**と思うようになった。そのため探究に重きを置くようになった。おかげで**思考や感情を言語化できるようになり、次に何が必要かわかるようになった**。

今後の予定

・インターネットや本で**校則についての情報を集める**
・アンケートの考察
・今回の**意見交換**は時間の関係で２学年としかやらなかったので、一年生とも、**関心がないとはどのような状態**か、**校則についての考え**を聞く
・半数以上の人が答えてくれることを目指して、反省を活かし、質問を変えて、**もう一度アンケート**

お世話になった方々

蔵木小学校　谷上元織　様
カタリバ　起塚拓志　様
大槌高校　様
猶興館高校　様
小国高校　様

ありがとうございました

Iターン者から考えるPR

2年　田中星羅

◯第二回フィールドワーク

菊次助産院　看護師　菊次弥生さん

足湯のイベントに参加、セラピーを受診

・足湯

・カラーセラピー

右図、好きな瓶を選ぶ

選ぶ瓶毎に心の傾向

自分の心を見つめ直す

◯活動のきっかけ

町の環境が好き

昨年度は吉賀町PR

心理学に興味があった

→全部やりたい

◯フィールドワーク後

求めていた話が得られなかった

これからの活動に行き詰まる

→当初のプロジェクトは難しすぎる？

◯当初のプロジェクト案

・環境がもたらす心理への影響

・都会と田舎の感じ方の違い

→町のPRへ

地元の人の地域の魅力

再発見

◯プロジェクトの一新

大学生交流、他校交流

「吉賀町には外部から来た人が沢山いる」

→外からきた人だからこそ、わかる事がある？

・Iターン者の情報を集めて、田舎の良さをまとめる

→PRにつながる

◯第一回フィールドワーク

7月12日

菊次助産院　看護師　菊次弥生さん

田舎の子供に取り巻く悩みを教えてもらった

・子供本人の悩みは傾向なし

・親は反抗期への向き合い方が課題

→親同士の仲間づくり

◯現在の状況

・吉賀町在住のIターン者の情報収集

→Iターン者の傾向、移住後について

・アンケート作成済み

・インタビュー者にアポ取り

・発信方法を模索

・着地点を決める

～4月頃まで

◯活動の中での学び

自分の能力を知れた

・思考力

・客観視

・作業の段取り

・情報のまとめ

◯アントレ活動での反省

実行力がない　　自信を持つ

問題に向き合い　　「こんな案で…」

計画を立てる　　「もっと考えないと…」

→その通りに動けない　　→行動できない

相談もできない

◯活動の中での学び

思考力　　客観視

結果　　⇅

→こうなった過程は？　　自分の能力を知る

このためには何が必要？

この結果を増やすには？

◯アントレ活動での成長

・社会人基礎能力

・計画力

・ハードルを下げる

◯アントレ活動での反省

・すぐ逃げる

・実行力がない

・自信を持つ

行動ができない

◯アントレ活動での成長

ハードルを下げる

アントレプレナーシップ活動

「ちゃんとした結果を出さないと…」

「地域のためになることを…」

悩んでいても行動しないと始まらない

自分に出来ることをやってみる

◯アントレ活動での反省

すぐ逃げる

プロジェクトの中での壁

どうして行き詰まっている？

解決のため、取るべき行動は？

→手に負えないので、後回し

◯お世話になった方々

看護師　　菊次　弥生さん

吉賀町役場　木村　充さん

大変お世話になりました。

ありがとうございました。

設備改革 Before After

２年齋藤匠真
浪花楢斗

考えたこと

・川に人が減っているのは汚れのせいではない

・川で楽しい思い出を作れば、子供が遊ぶようになる

最初は川についてのプロジェクトをしていました

・川で遊ぶ子をみかけない

・川で泳ぐのも、魚を取るのも楽しい

・川が好きだから

やりたいと思った案

川に100～200mのイルミネーションをつける

理由・・・きらきらするやつ好きそう

実現したい未来

子どもたちに川に親しんでほしい

その時の問い

・川で遊ぶ子供が減っているのではないか？

・離れている理由は川が汚いからではないか？

高津川を管理しているところに電話をかけた

・折返しの電話を先延ばしにしすぎてスケジュール管理が甘くて相手の方に迷惑をかけてしまった

・人それぞれ楽しみ方が違うので自分たちが押し付ける必要がないと気づいた

・めんどくささに負けてしまった

第１回フィールドワーク

アンダンテ21の人に話を聞いた

・川の汚れのほとんどが生活排水

・高津川はそれほど汚れていない

本当にやりたいことを再度考えた

体育館裏の筋トレ場所の改善

実現するとどうなるの？

・モチベーションアップ

・心地よくトレーニングすることができる

・清潔感が増す

なぜ筋トレ場所を改善しようとしたか

・古くて危ないと思ったから
・見た目でモチベーションが下がる
・やっていてやりにくい
・道具の数が少ない

アントレを通じてわかったこと

・自分の好きなことを最大限深める楽しい時間だけど、その代わり責任を自分で背負わないといけない

・実現できるかどうか考えてプロジェクトを考えないといけない

どう改善するの？

・ベンチプレスの台の交換
⇒ アマゾンで調べたら1万円ぐらい
・サビの除去
・掃除
・鳥の巣の除去
⇒ ホームセンターで購入可能

成長したこと

・去年は4人だったけど、今2人でプロジェクトをすすめていて自分が自主的に動けることが増えた

・視野広がった（現状を自分で確認する、写真を撮る）

実現させるためには？

ベンチプレス、ダンベルを新しくすることや
鳥の巣を作らせないためにはお金が必要

資金を集めるためには募金やリサイクルを利用する

お世話になった方々

アンダンテ21・・齋藤遼さん
佐々木隆志さん
タカラバ（高津川を愛してる会）
・・河野洋司さん

ありがとうございました

イベント大作戦

2年　伊藤柚葉　小倉歩友

最初のプロジェクト案

対象
町外・町内の
子ども

内容
四季を活かした
イベント

テーマを選んだきっかけ

・自然が好き
・体を動くことが好き
・子どもが好き
・自分たちでイベントを開催したい

プロジェクト実践

11/ 23
タカラバ主催のイベントに参加
チラシ作成
団子作り
イベントの感想アンケート

フィールドワーク

タカラバメンバー　斎藤　義徳さん

・イベントの方向性
・開催までの流れ
・今年の開催予定→11/23

イベントの様子

フィールドワークで気づいたこと

開催の日時は人が参加しやすい休みの日

チラシは小学校に配って人を集めている

自由に楽しんでもらいたいから
ルールはわかりやすく簡単に

高校企画

成長したこと

・イベント開催までに大人と話し合う機会が多く
コミュニケーション力がついた

・失敗から学び、計画を立てるようになった

・目上の人と話して正しい言葉遣いを学んだ

今後の予定

春にイベントを開催

場所：正国公園
対象：町内の親子・小学生
内容：サンドイッチ作り

2つのグループと合同

うまくいかなかったこと

・事前に人数把握ができていなかった
・早く行動に移せなかった

この一年間アントレの活動を通して人と協力することの大切さを学びました。たくさんの人と関わることでコミュニケーション力も上げることができました。
今後もこの力を活かしていきたいです。

伊藤　柚葉

これまでのアントレで学んだこと

・目標を立てることが大切
開催までの計画が立てやすい

・年齢の幅をこまかくすることで
内容や目的が決めやすい

この一年間のアントレを通して地域の方と関わるうちに、自分から積極的に関わることができました。苦手意識を持っていたことも克服することができてよかったです。
今後の活動にも繋げていきたいです。

小倉　歩友

プロジェクト変化

町外の参加者の確保は難しい
参加して自分も吉賀町でできることを知らなかった
町内の人も良さを知らないのでは？
⬇
まずは吉賀町の人から魅力を伝える
対象を町外から町内に

タカラバメンバー　齋藤　義徳さん
（高津川を愛してる会）

協力してくださりありがとうございました。

誰もが暮らしやすい未来を作るには

2年　新田充輝、竹原彗達

第１回フィールドワーク

場所：社会福祉協議会

買い物代行をするよりスマホ講座など高校生でも簡単にできるプロジェクトをしたほうがいい

～自分のwillやcan～

人の役に立ちたい!!

～仮説～

高齢者も暮らしやすい未来を作ったらもっと暮らしが豊かになる

～フィールドワーク後の案～

買い物代行、オンライン診療

⬇

スマホ講座

そのためには…

充実した暮らしができる環境を整備する

アクション　　スマホ講座

場所：朝倉公民館、七日市公民館

時期：9/11　9/22　10/1　11/24
11/24　12/8　1/25　1/26

～最初に考えた案～

買い物代行、オンライン診療

多かった質問

・LINEの友達追加の仕方
・QRコードの読み取り方
・写真の送り方

など

失敗、反省点
・アンケートをとるのが遅かった
・ガラケーに対応することができなかった
・最初のほうは計画実行力がなかった

これらの学び

なんのためにやっているかを考えながらする

仮説の中間結果

＊仮説の調べ方：アンケート
１2/８、1/２５実施　１３人

スマホ講座が満足できたか　：56%

スマホの良さを感じられたか　：60%

スマホを安全に使うための知識がついたか：46%

その他：またしてほしい！などのコメントが多かった

成長した力

メモを取る

発言できるようになった

今後すること

もっとたくさん講座をひらいて
アンケートをとる！

深化させたい所

準備力

うまく質問に答えられなかったので
ある程度、質問に答えられるように
準備しておく

活動のなかで嬉しかったこと、楽しかったこと

・使い方を教えてあげたときに喜んでもらえた
・あまり関わることのない人たちと交流できた
・はやく行動することができた
・たくさん開催することができた

お世話になった方

社会福祉協議会　包　さん
松本さん
斎藤さん
澄川さん
朝倉公民館　能美さん
斎藤さん
対馬さん

ありがとうございました！！

フードロス

2年7班　中村 心美　水村　莉子

～新たなPJ内容と仮説～

見捨てられている食材（柿・柚子）を
メインに活用した商品開発
⬇
放置され廃棄されてしまう食材の減少

吉賀町の見捨てられている食材の
美味しさを知ってもらえる!

～テーマ～

吉賀町の見捨てられている食材の活用方法を考える!

このテーマにした理由
・食品開発に興味があった
・吉賀町の食品ロスをなくしたい
・無農薬の食材をもっと活かしたい

～PJ実現のために行った実践～

- 10/11　柚子胡椒作り
- 11/13　ゆずゼリー作り、米粉の唐揚げ製作
- 11/14　ゆずの収穫（柿の木）
- 11/17　収穫したゆずの果汁絞り

～最初のPJ案～

吉賀町の廃棄されるお米を使って商品開発をする
⬇
最終的には自分たちで考えた商品を売りたい!!

～活動の様子～

～第一回目町内FW

訪問先：サジキアグリサービス
茅原 久子さん（かやはら ひさこ　さん）

◎わかったこと
↳吉賀町で廃棄されているお米は少ない…!?

～失敗や後悔～

計画を立てずにとにかく実践を繰り返し↓
その結果自分たちが何を目標としていたのか
がわからなくなる

どうしよーー！！(T_T)

～失敗からの学び～

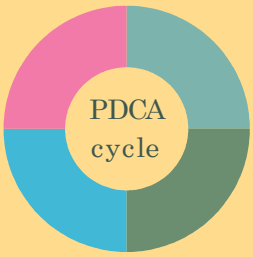
足踏み状態のときは…

⬇

PDCAサイクルを意識！

私たちが作ったレシピの一部です！

～PDCAサイクルとは? ～



PLAN
計画を作成する

DO
計画を実行する

ACTION
改善し、次に繋ぐ

CHECK
行動を評価・分析

レシピを知ってもらうためには…

①印刷をしてまずは校内に掲示
②調理している風景を動画にする
⇒QRコード化し全世代に見てもらえるようにする
③イベントチームとコラボをする
⇒試食してもらうと共にレシピを広める

～人との交流を通しての学び～

1. 高校生のうちに様々なことを経験して、コミュ力をあげることが大切
2. 自分の地域で採れる食材を活かす
3. 食品開発はとにかく実践を重ねることが大切
4. 校内だけにとどまらず、地域の人と積極的に関わることが大切

感想

この一年は実践の繰り返しで、悩むことがかたくさんあったけど、ペアの子と協力して楽しく活動ができたので嬉しかったです！
またこのPJを通して様々な食材と関われたので良かったです！

私はこのPJを通して、計画を実行に移す力が身についたと感じます。失敗をバネに成長できるようになれてのが大きな成長でした！！
ペアのことたくさん悩んで迷ったけど、何より楽しくPJが進められてよかったです！

～今後の活動～

今までの実践をレシピにする

⬇

見捨てられる食材の活用方法をみんなに知ってもらう

最終的には…
レシピの数を増やしていき、冊子のようにしたい

～お世話になった方々～

・サジキアグリサービス
茅原 久子さん　（かやはら ひさこ さん）

ご協力ありがとうございました!!

カメムシ
忌避開発

2ー1　手島弘太郎

最初の計画

対象：虫

寮にバグズアウトの常備とガムテープの配置することを考えました。ですが、根本的な解決になっていないので変更することにしました。

きっかけ

前提として私は虫が苦手です。東京から吉賀に来て多くの虫に遭遇する機会が多くなったからです。(カメムシ、ムカデ、ハエなど)

仮説

虫のいない寮を作るためには冬場に侵入してくるカメムシの対処が必須です。カメムシはキンチョールが効きづらく臭い匂いを出すので他の虫より力を入れる必要があると考えました。

Will

快適な寮生活を送りたい

虫を意識しない快適な生活を過ごすことが理想

現在のプロジェクト

対象：カメムシ

カメムシが侵入する経路の一つとして、荷物に侵入することがあるので、ストラップ型の忌避剤を作ることにしました。

FWや大学生交流を通して

農業普及員の方からは、害虫と益虫の見分け方、大学生の方にはスライドの見せ方などを学んだ

素材の候補①

試験済み
ハッカ、唐辛子

ハッカはカメムシがミント系の匂いを苦手とすることからその濃縮ならより効果が高いと考えたからと、唐辛子は刺激物の代表のカプサイシンなら効くと考えたからです。

素材の候補②

未試験
焼肉のタレ、コーヒー

焼肉のタレはテレビ番組にて数千倍に薄めて撒くことで米畑に近づかなくなったことを踏まえました。
コーヒーは農家さんのブログから参考にしました。

中間発表を通して②

忌避剤の匂い

忌避剤の素材の匂いが強いのではないかという指摘からミントを主体にして使う人の快適さも考慮した

今後の予定

素材の調合、実験 → ストラップ化

アントレと進路の繋がり

私の夢は、動物看護師

動物に対しての興味を広げられて自分の観察眼をひろげられた

成長したところ

言語化能力
自分の考えや計画を言葉に出来る

広い視野
新たなテーマを考え出せる

反省

行動に移すのが遅かった

実験を複数回試せなかった

中間発表を通して①

冬のカメムシ

冬になりカメムシが冬眠してしまい実験ができなくなってしまったが校内のカメムシを探し出すことで解決

協力してくれた方々

農業普及員　角奈津子さん

大正大学の生徒の方々

ありがとうございます

ゆず商品化計画

2年2組　貝賀杏奈

4月の興味関心

めんどくさいな

やりたくないな

他のPJにしょうかな

きっかけ

01
ゆずを加工したものをあまり見たことがなかったから

02
食品ロスの記事をネットで見るから

03
1年のときからこのPJをしているから

現在の興味関心

・始めたなら最後までやろう

・途中で辞めるのはもったいない

PJ内容

ゆずを使った商品を開発（考える）

⇩

ふるさと納税などの返礼品にする

失敗と後悔

- 計画せず始めて、うまく行かなっかた
- FWなどのタイミングが作れなかった

» うまく行かずやる気が出なかった

PJとSDGs

12.3
「2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の破棄を半減させ、 収穫後の損失などの食品ロスを半減させる」

改善

活動やアポし、きっかけを作る

活動

- ゆず収穫
- ゆずぽん作り
- 柚子ジャム作り
- フリーズドライ作り

自分の課題

自立

計画性

広い視野

１年間の成長

１．話すときに強弱をつけるようにした

２．大事な事を聞き逃さなくなった

活動２　柚子ジャムとゆずポンのアドバイス

ゆずぽん
少ししょっぱめ

ジャム
もう少し薄切りの方がいい

元青学生　Uさん

今後の予定

- 3月：FWをして情報収集
- ４月：ゆずのフリーズドライを活用した商品を考える
- ４月下旬：実際に作る

他校との交流

気づき

- イベントを沢山開いていた
- 地球環境に注目していた

感じたこと

- 出遅れを感じた
- 行動力に優れていた

お世話になった方

坂田コーディネーター

碓井　咲希さん

ありがとうございました！

持続可能な花壇づくり

～彩りのある学校生活～

２年1組　矢野 七海

フィールドワーク
もったか花園

- 多年生植物のこと ハーブのこと
- 花壇を作る上で気をつけること（植え方、植え合わせなど）
- 花を育てる上で知っておいたほうがいいこと （害虫、病気など）

きっかけ

花壇つくるのいい!

もっとうまく活用できそう

多年草植物は地味なものが多いことが発覚

↓

植え替えしなくてよくて
彩りのがある植物

↓

球根植物を植えよう!!

（球根植物は多年生植物に属す）

目標

1　持続可能な花壇

この一年が終わってまたもとに戻ったらもったいない!!

2　学校生活の彩りの一部

せっかくやるなら花壇自体の目標もほしいので…

調査

- 花壇の大きさ
- 必要な球根の数
- 購入費

※去年も使われていた土の入っている花壇が１つあり土台はないものとして計算しています。

最初のプロジェクト案

後継者の負担を減らすため…

多年生植物を植える

彩りの豊かな花を植える

通ったときに
リラックスできたらいい!!

ハーブを植える

花壇の大きさと必要な球根の数の計算

$2\pi r$　1.18×14=16.52

r　16.52÷2π=2.62923965988

r^2　6.91290118908

πr^2　21.7175195966

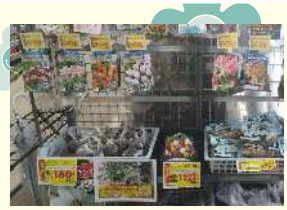
0.2×0.2=0.04　（20×20で球根一つ）

21.7175195966÷0.04=542.937989765個

値段調査

- JA
- ジュンテンドー
- インターネット

（JA、ジュンテンドーは現地調査）



12/12

耕した土から雑草をとる作業。同級生や後輩数名に手伝って貰うことができた。

⇨草を取る様子

資金集め、交渉

球根を５４３個も集めるとなるとやはり値段がそれなりにかかってしまうことがわかり、

事務長に交渉をし、１６０００円の予算を１次的に確保し、残っていたジュンテンドーの球根を大人買いしました。

12/19

⇨球根を植える様子

球根がついに届き多くの方の協力を得て無事球根を植えることができた。

資金を抑え多くの球根を手に入れるために

引率の先生が農家さんから直接買うと安くなる可能性があることを教えてくださり、**１度フィールドワークでお世話になったもったか花園の小田さんに電話し、出雲市のチューリップ農家の北村さん**を紹介して頂いた。

後日北村さんに電話をかけ、色の濃さの病気を持ったものや、くっついてしまい売り物にならないものを無償で譲っていただくことになった。

アントレを通した気づきと学び

私はアントレの活動を通して改めて何事も**後回しにしないこと**が大切だと感じました。後回しにすることで選択肢が減り、多くの可能性を狭めてしまうことを感じました。また、できないと思うようなことでも**やればできるということ**を学びました。私の場合、人や球根を集めることができるのかが不安でしたが、なんとか人も球根も集めることができました。この学びを活かし、これからはなるべく何事も後回しにせず、あきらめずに取り組んでいこうと思います。

12/09

球根が確保できたのでそれを植えるための準備を開始。

⇨土を耕す様子

お世話になった方々

もったか花園　小田圭二さま

今在家チューリップの会　会長　北村一夫さま

吉賀高校　野田 愛さま
　　坂田 紀之さま

協力してくださった皆様、ありがとうございました。

小説でPR

2年　髙久ゆう・正木歩乃圭

夏休みの調べ（FW2回目）

8月14日　＠柿木公民館
ぽんぽこりんさんの紙芝居を見た

吉賀町のいろいろなお話を元にした紙芝居がたくさんあった

きっかけ・自分のWill

・小説を読む、書くことが好き

・吉賀町は観光地が少ない

吉賀町PR班の神社スタンプラリーに
小説を載せることに

⇨ 一緒に神社へFW

最初に考えたプロジェクト案

吉賀町を舞台にした小説を作る

SNSを通して町外、県外の人に広める

FW3回目

12月4日　＠新宮神社（六日市）
山本謙二さんに神社にまつわるお話を聞いた

・新宮神社の歴史
・なぜ出来たのか

町内FW　1回目

7月12日　＠吉賀高校の図書室

三浦ちずるさん（ぽんぽこりん）
・小説を制作するにあたってのお話作りについて
・吉賀町の魅力について

FW4回目

12月6日　＠柿木八幡宮（柿木）
柿木八幡宮にまつわるお話を聞いた

・八幡宮の歴史
・行事　など

FW5回目

12月19日　@三宮神社（六日市）
三宮神社にまつわるお話を聞いた

・三宮神社の歴史
・施設　など

仮説

吉賀町を舞台にした小説を書いて
SNSに投稿したら
吉賀町の知名度が上がる

FWを通して

・吉賀町の魅力を知れた
⇨ 自然の豊かさ、人の温かさを改めて知れた

・グループ間の情報共有をきちんとする
⇨ FWで連携が取れなかった

プロジェクト案

内容：吉賀町を舞台にした小説を書く

対象：町外、県外の10代、20代の若者

場所：観光協会HP、SNS

学校横断型プロジェクトを通して学んだこと

・それぞれの地域の特徴や文化によって注目する観点が違った
⇨ その地域の特産品を活用していた

・小説づくりにおいての意見をもらえた
⇨ 小説に吉賀高校の先生を登場させたらどうか等

今の状況

小説を書き進めている途中

目標

年度末までに
小説を書き終える

創りたい未来

観光客が来る町

⬇️

知名度を上げたい

お世話になった方々

三浦ちずるさん（ぽんぽこりん）
山本謙二さん（新宮神社 宮総代）
小谷川圭さん（三宮神社・柿木八幡宮 宮司）

ありがとうございました！

吉賀PR

2年鈴木健太　平野大和
村上遥唯　岩本理沙

仮説

仮説
神社スタンプラリーを実施すれば吉賀町に訪れる人が増えるかも！

スタンプラリー
スタンプラリー感覚で楽しく観光してもらいたい！

目的
吉賀町に観光や移住してくれる人を増やす

なぜ神社
吉賀町には神社が多く、歴史もあるから

きっかけ

- 吉賀町を多くの人に知ってもらいたい
- 吉賀町をにぎやかな町にしたい
- 吉賀高校に行きたいと思う生徒を増やしたい

PJ概要

神社スタンプラリー

対象:
神社が好きな人

活動内容:
神社スタンプラリーの実施

仮説

仮説
吉高をPRしたら吉高に来る生徒が増える説！

SNS
tiktokなどのSNSを使って吉賀高校を広めていく

目的
吉賀高校に興味を持ってもらう！

なぜtiktok
中学生などに吉賀高校に対する興味を持ってもらいやすいから

第1回

奇鹿神社

渡邉さん

場所：七日市、柿木

- やくろ鹿伝説について
- 柿木の奇鹿神社との違い

PJ概要

TikTok

PRの対象：
10代から20代の方

活動内容：
高校の日常の様子
吉賀の風景

第2回

新宮神社

山本さん

場所：六日市

- 吉賀で最も歴史のある神社
- 置かれている龍について

第３回

八幡宮神社

小谷川さん

場所：柿木

・八幡宮に祀られている神様について
・神社の歴史

神社スタンプラリー

スタンプラリーの許可取り
神社決め

春休み開催予定なのでぜひ
参加してみてください！！

OUR MISSION

第４回

三宮神社

小谷川さん

場所：九郎原

・三宮神社の歴史について
・神様の数

アントレを通して

- **継続力**

→週１投稿を継続した

- **計画性は大切**

→神社スタンプラリーを実行できなかった

失敗

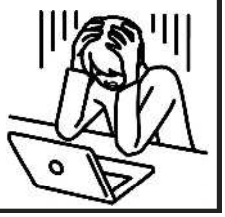
予定だった冬休みまでに間に合わなかった！！

失敗した原因

12月後半にスタンプラリーの神社の中に
地図がない神社があることが判明！？

⇩

気づくのが遅く地図を作ることができなかった



Thank you!

三宮神社宮司　小谷川さん
奇鹿神社宮司　渡邉さん
新宮神社世話役山本さん

TikTok活動

動画投稿や動画のバリエーション
を増やしました！！

具体的には、、、

学校の様子だけだったのが

⇩

他のアントレチームの様子
吉賀町のイベントの動画など

TikTokフォロー願いします！

島根県立吉賀高校【地域みらい留学】

吉賀町PR 天文学

2年　岩本さやか

プロジェクト案

内容：ワークショップ、星空観賞会

対象：小学生

時期：星の見えやすい冬（星空観賞会）

きっかけ

・吉賀町は空気が綺麗で夜空がきれいに見える→せっかくならアントレに繋げて吉賀町のPRをできないか

・個人的に興味があった小さい頃から流星群を見に行ったり家族が好きで身近なものだったりしたから。

プロジェクトの打ち合わせ

2月8日　@七日市小学校

具体的なワークショップの内容の説明
日程や内容の相談

フィールドワーク

日原天文台(zoom)

・星を見ることができる条件（開けているところ）
・季節に応じた天体イベント
・望遠鏡について

自分の強み

プロジェクトの内容を協力していただいた方に説明するときに原稿を作ったり、スライドを作ったりなど下準備をしっかりするところ

仮説

町民に夜空や自然の良さを知ってもらうことで
改めて吉賀町の魅力に気づいてもらえるのではないか

楽しかった・嬉しかったこと

プロジェクトの実践のための準備で小学生は何を楽しんでくれるのかを考えることが楽しかった

失敗・後悔したこと

プロジェクトに協力していただく方との連絡がなかなか取れず、予定どおりに進められなかった

進路との関連部分

計画性

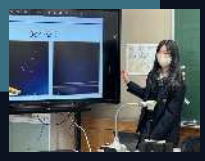
進路を実現するには計画的に行動しなければいけないのでそれをアントレで身につけられたらいいと思う

失敗から学んだこと、成長した部分

早めに行動に移したり、計画をしっかりたてる
二年生になって苦手だった発表を克服した

実践したこと

3月8日　七日市小学校でワークショップ
対象：3.4年生
時程：理科の授業時間
内容：箱プラネタリウム制作・クイズ



これまでのフィールドワークで印象に残っていること

日原天文台の方に聞かせていただいたときにプロジェクトで小学生に対しての説明の仕方や星空観賞会をするうえで気をつけることなどアドバイスを頂いたこと。

今後やりたいこと

星空観賞会、学童や公民館でワークショップ

改善するべきところ

ちゃんと実行できるような現実的な計画を立てる
フィールドワークをzoomで終わらせるのではなく実際に行けるところには現地に行く

お世話になった方

日原天文台　山本さん
七日市小学校　佐々木教頭先生

木を使ってものづくり

2年 村上希愛来 中山明

最初に考えたプロジェクト

〈 対象 〉

・子供

〈 内容 〉

・木でおもちゃなどを作る…

私たちのテーマ

余っている木を使って
ものづくりをしたい!!

フィールドワーク

〈 学習研修社（学研）安江教材さん 〉

・おもちゃは何が人気なのか
・作る時に気をつけること など…

このテーマを選んだ理由

山に切りっぱなしに
されている木があると知って、
もったいないと思ったから

フィールドワークの様子

カプラというおもちゃで遊びました!!

作りたい未来

1. 子どもたちが木で楽しく遊んでる未来
2. 少しでも余っている木材が減ってほしい

フィールドワークで知ったこと

- すいぼりがたっていると危ないので、ヤスリで沢山削ってツルツルにすること。
- 積み木はどの年代でも遊べるということ。
- 角が尖っていると危ないので、丸くすること。
- 余っている木材は山の中にあって運ぶのに、お金がかかるということ。

テーマを変更

余っている木材を運ぶには
お金がかかると言われた。

↓

プラスチックのおもちゃではなく
子どもたちに木のおもちゃで遊んでほしい!!

木製のおもちゃの良いところ

- 感覚の発達を促す
- 運動能力の発達を促す
- 不安の軽減
- 木製のほうが安全
- 木製のほうが静か
- 汚れが付きにくい
- 丈夫で壊れにくい・長寿命
- 木はシンプルだから良い
- 環境に優しい・持続可能
- 有害な化学物質の心配がない

作りたい未来の変化

プラスチックのおもちゃではなく
子どもたちに木のおもちゃで遊んでほしい!!

今後のこと

→
アントレの時間
〈積み木づくり〉

ヤスリでずっと
削っています!!

①積み木をたくさんつくる。
②保育園に持っていって
遊んでもらう。
③子どもたちが木のおもちゃを
使う回数を調べる。
④保育士さんにアンケートをとる。

実現するために立てた仮説

高校生が木のおもちゃを作ったら
子どもたちが木のおもちゃで
遊ぶ機会が増える。

一年間のアントレ活動を通して

この一年間のアントレ活動を
通して継続力が
成長したと思います。
同じ繰り返しの作業でも
続けてできるようになりました。
（　村上希愛来　）

この一年間のアントレ活動を
通して行動力が
成長したと思います。
自分で作業を進めることが
できました。
（　中山　明　）

プラスチックおもちゃに潜む有害な化学物質

1. リサイクルした
プラスチックを
使用しているおもちゃには、
リサイクルする前の
プラスチック製品に
含まれていた。
有害な化学物質が
そのままおもちゃに
紛れ込んでいる
ケースがあった。

2. ポリ塩化ビニルは、
柔らかいプラスチック。
フタル酸エステル類という
可塑剤（かそざい）が
多くの場合使われている。
このフタル酸エステルには
数多くの種類があるが、
一部は環境ホルモンや
発ガン性の可能性が
あることがわかっている。

3. ABS樹脂も
衝撃に強く
丈夫なプラスチック。
体内に蓄積して
健康被害をもたらす
臭素系難燃剤が
使われている
ことがある。

学習研修社（学研）安江教材さん
ご協力ありがとうございました。

こども

2年

橋本菜月　加藤那菜　新藤麻央　藤本由佳

町内FW第１回

in　七光保育所

質問：交流会は実現可能か　ｅｔｃ....

可能　活動する場合は早めに内容を教える

年長児交流会は一年に3回開催

Will･作りたい未来

子どもたちと関わりたい!!!

子どもたちが安心して過ごせる未来!!!

実際にFWに行ってみて...

3回目の年長児交流会で高校生が
考えた企画をしたい!!

しかし...行動が遅すぎて間に合わず

仮説

年長児の時から交流すれば安心して
小学校に行ける

新しくなにかしようと考えて...

双葉保育所と六日市保育所の
2園で交流会をしよう!!

最初に考えたプロジェクト案

吉賀町内の保育園児を対象とした
4園で交流会をする

プロジェクト案

実施日：1月22日（月）

対象	内容･場所
双葉保育所と六日市保育所の年長児	室内遊び 六日市体育館

町内FW第2回

in　双葉保育所

当日の時間･内容を伝えて
アドバイスを貰った

ｅｘ）年長児に伝わりやすい言葉

成長したところ

part　1

計画力

4園交流だと保育園の先生に内容決めや進行など
頼ってしまう部分もあったかもしれないけれど
2園交流に変更になったことで自分たちで
一から全部計画できた

交流会当日 in 六日市体育館

人数：14人

インフルエンザ流行中のため参加人数は
予定の約半分。。

緊張していた子も
時間がたつに連れて笑顔に☺

成長したところ

Part　2

実行力

当日は人数が想像より少なかったり、寒さなどで
体が動きにくかったり想定とは違うこともありましたが
その都度対応し、考えていた内容を実行できた

内容：じゃんけん列車　バナナ鬼　風船バレー　風船運び　ドラキュラ

これからのプロジェクト

継続して交流できることをする

感想

保育園の先生

･1日入学の前に交流できたのでいいタイミングだった

･ルールはあるもののそのときに応じて変更していたので良かった

･グループを作るときは園児同士で決めるのではなく意図的に
他園同士でグループができるようにしたらいい

お世話になった方々

七光保育所　様
六日市保育所　様
双葉保育所　様

ありがとうございました

高齢者の笑顔溢れる よしか町に！

2年　沖田　優花

第一回フィールドワーク

反省

企画書を作って行かなかったこと

自分のWIIが先行していたこと

目的をはっきりしていなかったこと

きっかけ

日本は世界トップレベルの長寿国

健康に長生きしてほしい！！

メンタルからのサポートはできないか？

第一回フィールドワーク

学び

高校生しか思い浮かばないこと

孤の解消

ふれあいサロンではないところで
高齢者の方との交流

初期のプロジェクト案

1. 子ども食堂に出向く

   →子どもが苦手

2. ふれあいサロンで一緒にご飯を作る

   →衛生的に難しい

3. ふれあいサロンで一緒にご飯を食べる

   →1．2月は行われない
   目的がわからない

第一回フィールドワーク

第一回フィールドワーク

吉賀町社会福祉協議会

12月20日

自分のWIIと高齢者の方のNEEDSの確認
アントレ内容の確認

澄川　恵美子さん　　松本　源太郎さん

第二回フィールドワーク

吉賀町社会福祉協議会

1月29日

プロジェクトの方針の決定
フィールドワーク先の決定

澄川　恵美子さん　　松本　源太郎さん

第二回フィールドワーク

反省

企画書が箇条書きで自分以外に伝わりにくかった

イメージがしにくい部分があった

去年行ったこととのギャップ

今後の予定

社会福祉協議会の澄川さんと松本さんへ
チラシやアンケートのメールを送る

⌄

チラシでアポ取り

⌄

実際にフィールドワークに行く

第二回フィールドワーク

学び

ふれあいサロン以外にも高齢者の
方の高校生へのNEEDSがあること

効果測定の方法や宣伝の仕方

一年間での反省

自分のWILLが先行していた

中々プロジェエクトが定まらなかった

一年生のときから成長できてない内容を行おうとしていた

進めているプロジェクト

1. 高齢者の方が多い小さな集いに参加させてもらう
2. 人生グラフや高齢者の方の思い出の品等を持ち寄って頂く
3. 人生グラフ等を持って高齢者の方とお話する

一年間での成長

一人でのアポ取り

計画して行動する力

今あるものの中で自分が何ができるか考える力

プロジェクトの目的

高齢者の方と高校生の交流

⌄

お互いの知らない世代を
知ることで
世代間交流を図る

普段と違うことをする

自分の若い頃に
ついて思い出す

⌄

楽しく認知症予防

1年間
ありがとうございました

社会福祉協議会
澄川 恵美子さん松本 源太郎さん

医療についての活動

2年1組　田中璃珀

フィールドワーク２回目

吉賀町役場健康福祉課　宗内さん
吉賀町役場医療対策課　石川さん

吉賀町が抱える問題

- 移動が難しい
- 医者が少ない
- 医療福祉についての情報が回っていない

フィールドワーク１回目

自分の興味関心は
健康や心理についてだったので

心理に詳しいきくつぎ助産院の
菊次弥生さんにお話を聞いた

足湯も体験した

アンケート実施

01. 体について相談できる人がいるか
02. 精神的な負担について相談できる人がいるか
03. 吉賀町で医療受診する際に困ったこと
04. 吉賀町の医療体制について改善してほしい所

吉賀高校男子生徒　２１名
女子生徒　２０名

思春期特有の悩み
青年期の悩み

他人からの評価が不安につながる

２歳までの保護者との関係で
他人との関わり方を学ぶ

相談される側になったとき

共感することが大事

心を健康に保つには

生活との両立が大事

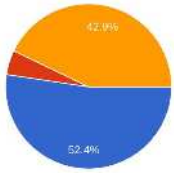
アンケート結果

Q1 体について相談できる人がいるか

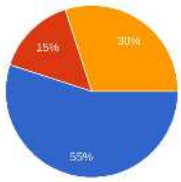
青　いる

赤　いない

黄　する必要がない



男性



女性

テーマ変更

心理から医療に

↓

問題を見つけ直さないといけない

↓

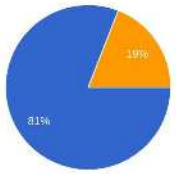
吉賀町の問題点を探す

Q２．精神的な負担について相談できる人がいるか

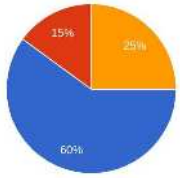
青　いる

赤　いない

黄　相談したいことがない



男性



女性

Q3.
吉賀町での受診で困ったこと

- 病院までが遠い
- 診察時間が短い
- 診察科が少ない
- 適当な診断をされる

Q4.
吉賀町の医療体制について改善してほしい所

- 診察科の増設
- バス代の値下げ

現在のプロジェクト案

対象　吉賀高校生徒（主に女子生徒）

内容　自分が体験した足湯をしてもらうことで健康に興味を持ってもらう

アンケートを集計した上での考察

- 知らないひとに相談するより身近な人に相談したい
- 女子は他人に相談しにくい
- （意外に）健康な人が多い

プロジェクトの今後

２月１４日　打ち合わせ

３月８日　足湯＆カラーセラピー
　１５日　ぬか袋づくり

６月　パンフレット作成

仮説

健康にもっと興味を持ってもらうには

最初はわかりやすくすることが必要

↓

対象を絞ることが必要

自分が成長したと感じていること

- ひとりでやることに慣れた
- 次にするべきことを予測して動けるようになった

今後わたしがしたいこと

- 成長させたい能力を伸ばす

広い視野　予定通りに動く

- 自分の将来に役立つ活動をする

わたしが吉賀町でできること

健康に興味をもってもらう

女子が相談できる環境を作る

受けられる福祉医療について広める

お世話になった方々

吉賀町役場健康福祉課　石川さん

吉賀町役場医療対策課　宗内さん

きくつぎ助産院　菊次さん

ご協力いただき、無事にプロジェクトを進めることができました。
ありがとうございました。

1年間のアントレを振り返って

■1 年生感想

・１年を通して感じたことは、アントレ活動に積極的に関わることができたことです。今までなかなか人とうまく関わることができなかったけど、いろんな活動を通して少しずつ人と関わることができるようになりました。難しいこともありましたが、１年間頑張ることができたと感じました。

・私はアントレの活動時にはコミュニケーション能力・計画性・主体性を身につけることが重要だと思いました。フィールドワーク先では沈黙の時間があったり、人に会話を任せてしまったりすることが多くありました。今後は自ら案を出したり、話しかけたりするなどの主体性を持つことが大切だと感じました。また、人に伝える際にもスライドだけではなく実物を見せるなど具体的にイメージの持てるような工夫もやっていきたいと思いました。しかし、班の活動では自分から意見を出すことができたり、電話でのアポ取りもできたりした点は成長したと思うので良かったです。

・１年間を振り返って、幅広い世代の人に伝える力と、自分たちが中心となって企画・運営する力が身につきました。また、公民館での企画を成功させるために、公民館の方や東京研修の企業の方とのやり取りを通してコミュニケーション能力も少しは身についたと思います。ただ、計画を立てるのが遅かったなどの反省点もあるので次回からは改善していきたい思います。

・私が１年間のアントレを通して学んだことは自分たちだけでプロジェクトを進めるのではなくて、大人の力をしっかり頼ってもいいということです。また、自分が成長したと思うことは初対面の大人ともしっかり話せるようになったことです。私は人見知りで初めて会った方と話すのが苦手でしたが、プロジェクトを通して人と関わる機会が増え、その分話せるようになりました。

・この１年間で身につけた力は自分から意見を言う力です。公民館の方や大学生の方と会話する際、年齢が上ということもありどのような話題で話しかければいいかわからず、あまり話せませんでした。しかし、時間と共に打ち解けてきてイベントについてアイデアを出し合うことでコミュニケーションが取れるようになりました。しかし、東京の企業訪問ではまだまだ力が発揮できなかったので、この反省を２年生のアントレで生かしたいと思います。

■２年生感想

・１年間を振り返り、様々な出会いがありました。自分の行うプロジェクトは他の班と行動を共にすることも多く、生徒同士の交流はもちろん、地域の方々ともたくさん関わる機会がありました。この関わりの中で「いいなあ」と思う瞬間がたくさんありました。自分はこの感覚を求めて吉賀高校へ来たのだと強く思いました。アントレは地域に貢献できてなおかつ自分の人格形成の基盤になっていると思います。

・アントレを通して学んだことは計画を立てることの大切さです。前半は期限や具体的な目標を決めずに行動し自分たちが考えた企画ができませんでした。後半は自分たちで声を掛け合うことで内容が進んでいきました。また、活動を通して考え方も変化しました。最初は、子どもと遊んだり話したりすることに苦手意識がありましたが、たくさんの子どもと接する活動を通して関わり方もわかり、前向きな気持ちになりました。

・今年度は自分の興味があることを一人で活動できました。人に話を聞くことや予定を立てて行動することもこれまでより上手くできたと思います。しかし、もっと工夫し、考えることで時間をかけずにできたところがあったように思います。私がやりたいことと吉賀町のためになることを結びつけることが難しくて、できないこともあったので次はその両立を目指していきたいと思います。

・この１年間を通して小規模校サミットの交流や成果発表会参加などいろいろなことに挑戦することができました。その挑戦の中で新しい自分を見つけることができました。人の話を聞くことで新たな興味を広げることができたことに加え、自分の発表を通して得意なことや好きなことはこういうことなんだと改めて実感できた１年でした。

吉賀高校アントレ　講評

青山学院大学　教育人間科学部　教授　樋田　大二郎

発表会では、吉賀高校のみなさんが取り組みを通して成長している姿を感じることができました。そした、アントレの素晴らしさと可能性を感じることができました。

吉高生の自分ごとはひと味違う自分ごとでした

吉高生は対象となる問題を他人事ではなく自分ごととして取り組んでいました。ここでいう自分ごとの意味は、主体性とか自分の問題として関わるという意味だけでなく、自分が何をしたいか何をできるかに焦点を置くことによって、挫折して立ちすくんだりあらかじめ行動をおこさないというあきらめの状態に陥ることなくアントレにしっかりと取り組んでいました。また、自分らしさを大切にしたいという意味でも自分ごとになっていたのではないでしょうか。

モノ・コトに取り組むか人に取り組んでいました

一般に社会への働きかけはモノ、コト、ひとが対象になります。モノは建物とか商品とかの具体的な事物のことを言います。今年の発表では空き家や食品、花壇などが取り組みの対象になっていました。これに対してコトは出来事であり、今年の発表では地域の祭りや小・中学校でのイベントなどが取り組み対象になっていました。しかし、それらの取り組みで印象に残ったのは、モノやコトに取り組むときにそれだけでなくひとを巻き込んでいたことでした。花壇の取り組みでは吉高生や地域の生産農家を巻き込み、地域のイベントでは小学生を巻き込んでいました。その他にも各取り組みが、役所や地域住民を巻き込んでいました。このように課題と向かい合うときに、課題だけでなく課題を抱えている大人や老人、子どもなど、吉賀町の町民を巻き込もうとしていることが印象的でした。もしかしたら町民の方から巻き込まれようとしていたのかも知れませんが、そうだとしたらそれは吉賀高校生と吉賀町民の長いアントレを通しての交流の中で高校生が町民を巻き込んできた成果かも知れません。今後、ますますアントレの特徴であるひとを巻き込んだ取り組みが広がることが期待されます。

実践したから分かることがありました

各取り組みは、机上の空論や思考実験にとどまらず、実践を伴っていました。しかも、一度きりのやりっぱなしではなく、悩みながら繰り返しおこなっていました。よりよい結果を求めてのチャレンジの繰り返しは、取り組みの意義や方法の問い直しや、自分自身の有り様への問い直しが感じられました。吉高生は、町や自分自身がどんな所なのかどんな人なのか明確になってきっと思います。

発表会場での双方向のかかわりがありました

発表方法で感じたことが２つあります。一つは発表のテクニックが優れていたことと発表に遊び心があり発表内容に引き込まれました。そして、もう一つは発表が取り組み成果の言いっぱなしではなく生徒や傾聴している町民への語りかけになっていて、生徒や町民からの反応を感じながら発表が盛り上がっていく印象がありました。会場全体が盛り上がって行く印象でした。

感謝いたします

私は今年度も従来と同じく高校生と大学生の協働探究活動の部分にかかわりました。そして、アントレの授業が成長していること―生徒と先生と地域住民が協働して学びの場を作り、それかかわるこ

とでみんなが変化・成長していること―を実感しました。これからもアントレで苦労して楽しんで、それぞれの成長の機会と向かい合っていただけると幸いです。最後になりましたが、大学生と大学教員はアントレからたくさんのことをいただいています。感謝いたします。

大正大学 地域創生学部 教授 浦崎 太郎

これは毎度のように記していると思うが、毎年２月は高校生の探究発表会が続き、今年は中学生の発表も含めると、計７件の対面発表会に立ち会った。その中には、大人が造った型に嵌め込まれて痛々しさを感じる発表が残る学校もあるのだが、吉賀高校の発表会は、昨年度にもまして心地よさを感じる会だった。

そう感じたのは、「なぜ君がこれを？」に対して「なるほど！」という理由があり、肩の力が抜け、活動を楽しみ、自分の内にあるものを自然な形で表現できる人が増えたことが大きいように思う。そして、そうした進歩には、次のような原動力が作用していたように思う。一つ目は、先輩の立派な姿に後輩が学ぶ伝統が分厚くなったこと。二つ目は、コロナ禍の影響が緩和されて大学生とのリアルな交流が可能になったこと。そして三つ目は、小規模校サミットや学校横断型探究プロジェクト等、他校の生徒と対面や遠隔で交流し、切磋琢磨する機会が増えたことだ。なお、発表の端々から感じたのは三つ目の大きさで、自分の深いところに内在するものが交流を通して引き出された様子を、容易に想像することができた。

実は、「地域で自分を表現するのは楽しい」という感覚をもてた経験は「予測困難で変化の激しい時代」を生きていく上で、とても大きな財産だといえる。それは、転職をはじめ、老いるまでに何度も訪れるであろう大きな変化に対する受け止め方が、前向きになるに違いないからだ。少し想像を巡らせば、上記の「楽しい」という感覚がない者は、変化に怯え、いざ変化に直面すると絶望に打ちひしがれるしかないであろうのに対して、「楽しい」という感覚の持ち主は、変化を楽しみ、次なる舞台へ軽やかに移行できる可能性が高いのだ。こうした価値は、もっと広く学校の内外で共有されてもよいのではなかろうか。

以上、吉賀高校のアントレは、かつての「地域に貢献する」ことが強調されていた段階から「自分らしく地域に貢献する」段階へと進化している。こうした土台の上に目指してほしいのは「自分らしく賢く貢献する」段階への進化、すなわち「賢くなる」ための努力だ。

アントレには「町の将来を拓くために新たな事業の創造を」という願いも込められていると思う。その際にぜひ必要なのは、都会の専門家を引き込むことであり、それには専門家が持っている見方や考え方を、自身も身につけることが必要だ。例えば、牛糞を見たとき、一般人は「排泄物」という見方しかできない。それに対して専門家は「牛糞の元は食物で炭水化物。成分元素は炭素・水素・酸素。メタンやアルコール等の燃料と成分元素は同じ。だから、牛糞を上手に発酵させれば燃料を取り出せるはずだ」という見方や考え方ができる。

これに関して、今、都会と地方の間で起こっているのは、「地方の人たちとともに互恵的な事業を創造していきたい」という想いをもつ都会の専門家が、地方に来て「言葉が通じない」と感じ、去っていく現象だ。これは、アントレだけ頑張ればよいのではなく、様々な教科の授業を大切にし、各教科ならではの見方や考え方をしっかり身につけることが、町の持続可能性を高める上で生命線であることを意味する。

幸い、アントレを通して現場経験を豊富に積んでいる２年生なら、難しめの書物を読んでもスーッと頭に入ってくる素地ができている。ここに至るまでに少し時間はかかったかもしれないが、この素地を活かせば、見違えるほど賢くなる可能性を秘めているのだ。

それは、吉賀高校を卒業して今は大正大学地域創生学部で学ぶ下野翔輝君が実証している。彼は大学に入学してから、学業面でもずっと先頭集団に属しており、質問の鋭さや思考の深さなど、教員から高い評価を受けている。それはつまり、東京の専門家と組んで仕事を創り出していける実力を高めつつあること、そしてその先、吉賀町に都会の専門家を引き込める可能性が高まっていることを意味する。

その点で、かつては 2 年生の 2 月が最後だった発表会を、下野君の学年から 3 年生の 7 月まで引っ張るようになった意義は、きわめて大きいものがあるといえる。それは、先日の発表会から夏休み前までの期間が、アントレの経験を土台に、自分自身に向きあい、社会に向きあい、教科に向きあい、自分の中で進路・社会・教科を統合し、成長を加速する、絶好の機会になるからだ。その際、早めに熟読してほしいのが、受験を検討している大学や専門学校等の募集要項や総合型選抜の入試問題だ。それは、ここには単に合格するための情報が記されているだけではなく、進学後の学業成就にむけて鍛え上げるべき力が示されているからだ。こうした事情から、そこに示された力を理解して受験勉強に挑むのと、理解せずに挑むのとでは、入試はもとより、将来にわたって大きな差が表れると言ってよい。

こう聞いて「自分は就職だから関係ない」と思う者がいたとすれば、それは間違いだ。共通の社会背景に基づいていることから、大学等が志願者に求める力と、企業等で求められる力は、同じになるに決まっているからだ。むしろ、入試に左右されない分、賢くなるための学びにじっくり取り組んでいけるメリットを、大いに活かしてほしい。

以上、2 月の発表会に立ち会って感じた成果や課題について述べてきた。こうした重要性をふまえて、1 年生は 2 年生の学校生活を展望してほしいし、2 年生は最終発表会までの学校生活を充実させてほしい。両学年とも、7 月に訪問した時にどんな姿に出会えるか楽しみにしている旨を表明し、結びとしたい。

桜美林大学　教育探究科学群 准教授　山崎　慎一

1. はじめに

はじめて吉賀町を訪れたのは、ほぼ 1 年前に開催されたアントレ成果発表会であり、その時はほぼ何も分からずに体育館にいました。ただ、高校生の発表にも関わらず、町内の多くの方々が参加をしていたことへの驚き、そして初めて訪れた自分に対する町の人達の優しさは今でも鮮明に覚えています。その後、春から夏にかけて高大協働研究（オンライン）、夏には大学生の吉賀町訪問、そして秋には吉賀高校の生徒による東京研修等を経て、2024 年 2 月 9 日、自身として 2 回目のアントレ成果発表会に参加をするに至りました。ここでは 2023 年度の吉賀高校における取組みを振り返っていきたいと思います。

2. 変化と成長

2-1. 変化と成長—高校生

吉賀高校と首都圏の大学によるこの取組みは、一言でいえば「変化と成長」であったと考えています。2023 年度の吉賀高校の 1 年生は、近年と比べて多少おとなしい方であると事前に聞いており、特に高大協働研究においてはコミュニケーションに苦労をしていた印象を持っています。しかし、吉賀町を訪れて一緒に吉賀町の中で調査研究等を行い、また東京研修も共にしていく中で、高校生の主体性や創造性は着実に発揮されていたと思います。最初はほとんど喋れなかった高校生が、第 2 回目のアントレ成果発表会では、自分の言葉でしっかり自分の興味関心や想いを伝えることが出来るようになっています。町内の方々、さらにはオンラインも含め多くの人々が見ている舞台で、こうした経験を得られることは吉賀高校の生徒の強みになるものと理解しています。

2-2. 変化と成長—桜美林大学の学生：

吉賀高校との協働は、高校生の成長のみならず、大学生の変化と成長を作るものでもあります。桜美林大学の教育探究科学群は、2023 年度新設の学群（学部相当）であり、1 年生しかいない状態です。そのため、大学 1 年生にどこまで高校生の支援が出来るのか、他大学の先輩方とうまくやっていけるのかなど、様々な心配をしていました。しかし、高校生に寄り添いながら交流を重ね、秋の東京研修を成功に導き、高校生の素晴らしい発表に資する取組が出来ていたと思います。教育探究科学群は、その名称に教育を冠するにもかかわらず、教職課程に依らない特殊性を有しており、それなりの批判も受けてきています。しかし、今回参加した大学生の高校生に対する教育への関わり方や他者への接し方は、とてもバランスが取れているものであり、高校生の自主性の尊重と、興味関心を伸ばすアプローチと同時に、大学生自身の好奇心や熱意を失わないように関わることが出来ていました。このような他者との関わり方は、教育現場に限定することなく、人と接するあらゆる場所において適用可能です。これからの社会における大学教育を創る上でも、吉賀高校と行われているような高大連携活動は有意義なものです。また、大学生のキャリア教育の観点からも、吉賀町の関係者、特に魅力化コーディネーターの方々との対話は、将来の目標や仕事を考える上で意味のある時間であったと考えています。

2-3. 変化と成長—自分自身

この 1 年間を振り返ってみると、吉賀高校の生徒や桜美林大学の学生だけでなく、自分自身にとっても変化と成長を感じられる時間であったと言えます。高校生や大学生、そして吉賀町の人から、人との繋がりの意義、コミュニティの重要性、他者を思いやる気持ち、何事にも楽しく取り組む意思、好奇心の大切さなど、普段は中々認識や実感のできていないことを気付く機会になりました。また、これまではどちらかと言えば、大学生や大学進学を希望する高校の上級生との関わりの方が多く、つい最近まで中学生であった高校一年生と学ぶ面白さも知ることが出来たと思います。吉賀町のこの取り組みに関わる多くの人々から、高校一年生の変化や成長の早さを度々聞いていましたが、ようやく実感を伴って理解に至ることができました。

3. おわりに：

これまで吉賀町と大学の取り組みを創ってきた青山学院大学の樋田大二郎先生が退官されます。アントレの成果発表会の前後の時間において、様々な形でこれまでの経緯や築いてきた人間関係を知る機会がありました。偉大な研究者は、往々にして教育者として適格とは言えず、高等学校の教育改革の成果を大学教育が受け止め切れていない一因にもなっています。しかし、樋田先生は一流の研究者であると同時に、一流の教育者でもあり、そこには常に年齢や立場に関わらず他者への敬意と、本人の持つ特性や個性を活かし、伸ばしていく姿勢があると思います。

2024 年度以降、樋田先生がこれまで築かれてきた文化を維持しつつ、この取り組みを続けていくことが期待されています。同時に、自分自身がそこに積極的に関わっていきたいという気持ちも持っています。これまで、どちらかと言えば新しい物事をつくってきた自分にとって、すでに明確に築かれた良い文化や価値観を残しつつ、発展をさせていくというアプローチは、自分の立場や位置付けの変化を感じる新たなチャレンジになると思います。吉賀高校、そして吉賀町の皆さんと一緒に、この新しいチャレンジをしていけることを楽しみにしています。

青山学院大学　教育人間科学部　客員研究員　大木　由以

全体を通して、多くの生徒が落ち着いた発表をしていると感じました。プレゼンテーション資料はこれまで以上につくりこまれているものが多く、配色の工夫やアニメーション効果的な使用が見られました。質疑応答の際には、発表者に対するアドバイスになるような質問が投げかけられていたことも、印象に残っています。

◆感謝の気持ちを大切に

皆さんのプロジェクトには、多くの学校外の方たちがかかわっていました。それは、大人だけでなく子供もです。かかわってくださった方に対して敬意を払ったり、感謝の気持ちを示したりできるといいですね。皆さんが高校生だからそうすべきだというのではありません。大人になってもずっと同じように大切なことです。

皆さんの中には、企画・実施した事業等の後に参加者から手紙をもらった方がいらっしゃいました。そうした心配りは嬉しいですね。皆さんも協力してくれた方・参加してくれた方たちに思いを寄せ、必要があれば活動の経過や感謝の気持ちを伝えていく必要があるでしょう。皆さんにはそうする責任がある、ということもできます。

◆上手に頼ろう

感謝をしたうえで、上手に頼っていけそうです。皆さんの発表を聞いていて、周りの人たちに上手に頼っているなと思いました。自分でやるべきこと・頼った方がうまくいきそうなことを考えて判断していけるとよさそうです。例えば、「〇〇を知りたい」と考えたとき、自分だけで調べるという方法が全てではありません。同じような問題意識をもっていて、すでにいろいろなことを知っている人がいそうだったら、その人を頼る方法もあります。

◆学んだことを記録して学びを深めよう

最後に、感じたこと・考えたことを言葉にしながら記録できるとよさそうです。発表を聞いていると”もっと具体的に聞いてみたい””どのようなエピソードがあったのだろうか”と感じることが多かったです。活動を通して何か感じることがあったならすぐに記録を取って、その記録をエピソードと一緒に発表できると、聞き手は具体的な状況をイメージして聞くことができます。発表が具体的だと、それに対する質問やコメントも具体的になるので、活動の発展にも結び付きますね。

今後の展開が楽しみです。